

3 学習のすすめ方

(1) すすめ方のヒント（展開例）

それぞれのワークシートに応じた「すすめ方のヒント（展開例）」を掲載しています。学習会（講座）を進行する際の参考としてください。

1 学習会の計画（準備）について

ファシリテーター（及びスタッフ）は、どういう方を対象に、どういった内容（ねらい）の学習会を行うのかなど、主催者と打合せを行い、事前にしっかり計画を練ってください。

参加者の実態や学習ニーズ等に合わせて、プログラムを変更してください。それに応じて、準備物なども変わってくるかもしれません。ファシリテーターが複数いた方が良い場合もあります。事前にしっかり計画しておくこと、当日余裕を持ってファシリテートすることができます。

《主催者との打合せ内容》

- ・ 講座の時間
- ・ 参加者の人数、性別、年代
- ・ 講座のねらい（学習ニーズ）
- ・ 使用するワークシート
- ・ 会場の広さや状態（会議室か体育館か、和室か洋室か、ホワイトボード、机や椅子の有無など）
- ・ 準備物の手配確認
（筆記用具、名札、マグネット、模造紙、ふせん、ワークシート、アンケート用紙など）
- ・ その他（託児等の有無、講座の前後の日程、主催者あいさつの有無など）

2 学習会の規模（参加人数）について

この「すすめ方のヒント」は、「参加人数 20 人（5 人×4 グループ）程度」という想定で作られています。

※自己紹介や意見交換する場合、グループで一人が1分話すと、5人で5分かかります。1グループに10人いれば10分かかるので、結果的に一人が発言する時間が短くなり、十分な意見交流ができなくなってしまう。また、グループ間の人数が異なると、意見発表にかかる時間もずれるため、全体の進行に影響が出ます。グループ間の人数が大きく異ならないよう留意しましょう。

※学習会の規模（参加人数）は、理論上は、グループワークができる場所さえあれば、何人でも可能ですが、実際には、グループ数が多くなると、全体の進行管理が難しくなります。ファシリテーターを一人で務める場合には、30人程度（5人×6グループ）までが適当でしょう。

※参加人数が多い場合には、ファシリテーターをチーム（複数人）で行うなど、進行の役割分担（メイン・サブ、アイスブレイク担当など）の工夫をしましょう。

※少人数（10人未満）の場合は、グループ分けはせず、1グループでファシリテーターが直接グループワークの進行を行っても良いでしょう。

3 学習の流れ（展開）について

学習活動は、プログラムごとに異なりますが、概ね次のような流れで展開されます。



- ①ファシリテーターの自己紹介や参加型学習の趣旨を伝えます。
- ②参加者全員で「3つの約束」(P. 8)を確認しあいます。
- ③参加者同士が打ち解けやすい雰囲気づくりのために「アイスブレイク」を行います。
- ④話し合いの活動がしやすい人数でグループを作ります。(⇒ワークシートを配布)
- ⑤身近なエピソード等をもとに、ワークシートに自分の思いや考えを記入し、グループで話し合います。
- ⑥グループで出された意見等を全体に紹介します。
- ⑦学習のなかで感じた「気づき」などを「学習のふりかえり」に記入し、みんなで共有しながら学びを深めていきます。

4 必ず自分で「展開案」を作らしましょう

この「すすめ方のヒント」は、あくまで展開の一例です。必ずしもこの通りに行う必要はありません。実際の展開に当たっては、時間配分、会場、参加者の状況、学習ニーズ等を考慮して、必ず自分で展開案を作るようにしましょう。展開案を作成するにあたっては、次の点に留意してください。

※導入の「アイスブレイク」は、学習会全体の雰囲気作りに関わってきます。自分が自信を持って進められるものや、その場の状況に合ったものに適宜変えてください。

※ワークシートに沿って、ファシリテーター自身も、事前に自分なりの「考え」を記入してみましょう。エピソードや設問の意味が分かりにくいところ、自分が学習者だったらファシリテーターに質問したくなるようなところはないでしょうか。記入しにくい設問は、どう変えれば記入しやすくなるか、考えてみましょう。考える時間や記入する時間も計ってみましょう。他にどのような意見が出てくるかも予想してみましょう。

※自分なりのシミュレーションを基にして、展開案（**導入**⇒**展開**⇒**まとめ**）を組み立てましょう。展開案の中には、参加型学習プログラムの主旨や「三つの約束」を伝える時間を必ず入れましょう。

※まとめとして、参加者が考えを深める「振り返り」の時間を設定することも大切です。「振り返り」を通して、自分の気づきにつながります。参加者の気づきを整理して全体で共有できるように工夫しましょう。

※学習展開の順番や時間配分だけでなく、「ワークシート」のエピソードや設問についても、学習会の目的や時間などの状況に応じて、進めやすいように内容や表現を変えても構いません。学習効果がより高まり、自信を持って進められる展開案を作成しましょう。



<「自分の親は将来の自分」期：「親はウルサイけどアリガトウ」編－1>

対象（時間）：中学・高校生などの青少年（100分程度）

おぎゃーってスゴイ！ ～生まれてきた自分、やがて生まれてくる命～

【ねらい】卵を自分の子供に見立て、命の大切さと、親として命に関わることの責任の重さを実感する。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙、フェルトペン（油性など卵に書けるもの）、パック入り生卵（人数分+α）、かご（保育所などに見立てる）、雑巾など（卵が割れた時の用意）

時間	アクティビティの展開	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	※スケジュールを板書しておく。
：	○ファシリテーター（学習支援者） 自己紹介、主旨・ルールなどの説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。（肖像権） ○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守）、ただし、言いたくないことは話さなくてもよい。（パス有り）	・机は講義形式
：	○アイスブレイク（雰囲気づくり） 「あなたの誕生日は？」 ①言葉を交わさず、身振り手振りで誕生日情報をやりとりし、順番に並ぶ。 ②誕生日を口で言って、確認する。 ③グループに分ける。	○初対面の人同士の場合、自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 ○誕生日を確認することで、「生まれてきた自分」を感じてもらう。 ○同じクラスなど顔見知りの場合は省略しても良い。時間があれば、親の誕生日なども。 ※卵を回すため、1グループ10人程度が良い。	・机を撤去 ・グループ数に応じて、机を配置
：	○タイトル、ねらいを読む。 <やってみましょう> 「ここに卵があります。それはあなたの子供です。さあ、一つずつ卵を手にとってください」 ①卵を手で温める。 ②生まれた子供に名前をつける。 ・ワークシートに記入し、グループ内で発表する。 ③かごに入れる。（全員） ・ワークシートに記入し、話し合う。 ④グループで2～3人、自分の卵をかごから出す。 ⑤みんなで輪になって卵を回す。 ⑥一周回ったらかごに戻す。 ※全員が済むまで④⑤を繰り返す。 ・ワークシートに記入し、話し合う。 ⑦最後は卵をパックに戻す。 ・ワークシートに記入し、話し合う。 ⑧自分の親に対してどのように思ったかワークシートに記入し、話し合う。	○テストではなく、ワークシートも回収しないので、時間をかけてゆっくり考えて書いてもらう。 ○卵を生まれてくる命と捉え、その大切さや危うさを実感してもらう。 ○手で温めながら名前を考える。 ※割れないように気を付ける。（割れた場合のコメントや対応を考えておく。） ○名前とその理由をワークシートに書く。（卵にも名前を書く。） ○三つの約束の確認をする。 ※かごに「〇〇保育所（園）」などと書いておくとうまい。 ※成長していく子供を思う、親の気持ちを想像してみる。 ○左隣の人から受け取り、右隣の人に渡す。 →いろいろな経験をして成長していく子供を見ていく親の思いを考えながら卵を回していく。 ※グループを外し、全員で一つの輪になって回しても良い。 ○親の子供を思う気持ちに気付いたり、「親になる自分」を想像したりする。 ※グループ内で話し合った後、どんなことを話したか、全体で意見交換しても良い。	
：	<学習を振り返りましょう> ○ワークシートに記入し、話し合う。 ○グループごとに発表 ○ファシリテーターの話	○疑似体験を通してどんなことを感じたか、自由に話し合う。	
：	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
〈メモ〉			

<「自分の親は将来の自分」期：「親はウルサイけどアリガトウ」編－2>

対象（時間）：中学・高校生などの青少年（100分程度）

親しらず 子しらず ～親子関係を振り返る～

【ねらい】自分の親子関係を振り返り、親の役割や気持ちについて考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、A3用紙、フェルトペン（裏写りしない物）、アンケート用紙

時間	アクティビティの展開例	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	※スケジュールを板書しておく。
（5分）	○ファシリテーター（学習支援者）自己紹介、主旨・ルールなどの説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。（肖像権）	・机は講義形式
（10分）	アイスブレイク（雰囲気づくり） 「クワガタ、ガシゴシ！」 「クワガタ、ガシゴシ！クワガタ、ガシゴシ！私はクワガタ。アナタもクワガタ！」と言って指差し、前に引き出す。（全員が前に出るまで繰り返す） ①「クワガタ」両手を上に挙げクワガタの真似 ②「ガシゴシ」右に一歩踏み出しながら、「ガシ」で手を開き、「ゴシ」で閉じる。 ③「クワガタ、ガシゴシ」同様に左に一歩。 ④「私はクワガタ」指で自分を指す。 ⑤「アナタもクワガタ」指で誰かを指す。 ⑥指された人は即座に前へ出て、今度は二人で踊りながら、次の指名を行う。 ⑦数グループに分ける。	○初対面の人同士の場合、自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 ○恥ずかしがらずに、笑顔で楽しく体を動かす。	・机を撤去
（5分）	○タイトル、ねらいを読む。 <エピソードを読みましよう> ○まず各自で黙読する。 ○次に配役を決めて音読する。	○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守）、ただし、言いたくないこと話さなくてもよい。（パス有り） ○場の情景が思い浮かぶまで読みこむ。 ※時間があれば、動作を付けて、寸劇にしても良い。（アドリブも可）	・グループ数に応じて、机を配置
（30分）	<考えましよう、出し合いましよう> ○設問①から設問③まで記入し、グループで話し合う。 ○発表する。 ○設問④に記入し、話し合う。 ○発表する。	○テストではなく、ワークシートも回収しないので、時間をかけてゆっくり考えて、書いてもらう。 ※中高生は、設問を見ると、早く最後まで書き込もうとする傾向が強いいため。 ※話し合いのリーダーを決めておくと良い。	
（5分）	○親の役割とはどのようなことか、考える。	※「日頃感じていることや意見交換で話し合ったことなどを通して『親の役割』について考えましよう。」などの補足の説明をすると良い。	
（25分）	○グループで話し合い、全体で意見交換する。	○話し合ったことを、全体で発表する。 →A3用紙にどんな役割があるか書き出し、この用紙を見せながら発表する。 ※用紙に書くこと、全体で発表することを伝え、学習の見通しを持って話し合うと良い。	
（15分）	<学習を振り返りましよう> ○ワークシートに記入し、話し合う。 ○グループごとに発表 ○ファシリテーターの話	※時間があれば、県民の声も読む。（県民の声は必ずしも「模範解答」ではなく、色々な意見があるということを示すためのもの）	
（5分）	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
〈メモ〉			

<「自分の親は将来の自分」期：「親はウルサイけどアリガトウ」編－2>

対象（時間）：中学・高校生などの青少年（100分程度）

親しらず 子しらず ～親子関係を振り返る～

【ねらい】自分の親子関係を振り返り、親の役割や気持ちについて考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、A3用紙、フェルトペン（裏写りしない物）、アンケート用紙

時間	アクティビティの展開例	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	※スケジュールを板書しておく。
（5分）	○ファシリテーター（学習支援者）自己紹介、主旨・ルールなどの説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。（肖像権）	・机は講義形式
（10分）	アイスブレイク（雰囲気づくり） 「クワガタ、ガシゴシ！」 「クワガタ、ガシゴシ！クワガタ、ガシゴシ！私はクワガタ。アナタもクワガタ！」と言って指差し、前に引き出す。（全員が前に出るまで繰り返す） ①「クワガタ」両手を上に挙げクワガタの真似 ②「ガシゴシ」右に一歩踏み出しながら、「ガシ」で手を開き、「ゴシ」で閉じる。 ③「クワガタ、ガシゴシ」同様に左に一歩。 ④「私はクワガタ」指で自分を指す。 ⑤「アナタもクワガタ」指で誰かを指す。 ⑥指された人は即座に前へ出て、今度は二人で踊りながら、次の指名を行う。 ⑦数グループに分ける。	○初対面の人同士の場合、自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 ○恥ずかしがらずに、笑顔で楽しく体を動かす。	・机を撤去
（5分）	○タイトル、ねらいを読む。 <エピソードを読みましよう> ○まず各自で黙読する。 ○次に配役を決めて音読する。	○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守）、ただし、言いたくないこと話さなくてもよい。（パス有り） ○場の情景が思い浮かぶまで読みこむ。 ※時間があれば、動作を付けて、寸劇にしても良い。（アドリブも可）	・グループ数に応じて、机を配置
（30分）	<考えましよう、出し合いましよう> ○設問①から設問③まで記入し、話し合う。 ○発表する。 ○設問④に記入し、話し合う。 ○発表する。	○テストではなく、ワークシートも回収しないので、時間をかけてゆっくり考えて、書いてもらう。 ※中高生は、設問を見ると、早く最後まで書き込もうとする傾向が強いため。 ※話し合いのリーダーを決めておくと良い。	
（5分）	○親の役割とはどのようなことか、考える。	※「日頃感じていることや意見交換で話し合ったことなどを通して「親の役割」について考えましよう。」などの補足の説明をすると良い。	
（25分）	○グループで話し合い、全体で意見交換する。	○話し合ったことを、全体で発表する。 →用紙にどんな役割があるか書き出し、この用紙を見せながら発表する。 ※用紙に書くこと、全体で発表することを伝え、学習の見通しを持って話し合うと良い。	
（15分）	<学習を振り返りましよう> ○ワークシートへ記入し、話し合う。 ○グループごとに発表 ○ファシリテーターの話	※時間があれば、県民の声も読む。（県民の声は必ずしも「模範解答」ではなく、色々な意見があるということを示すためのもの）	
（5分）	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
〈メモ〉			

<「自分の親は将来の自分」期：「親はウルサイけどアリガトウ」編－3>

対象（時間）：中学・高校生などの青少年（120分程度）

おや！ おや？ ～自分のあゆみと親のかかわり～

【ねらい】「自分史」を作るなかで親との関係を振り返り、将来どんな親になりたいかを考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙、現代史の年表（できれば参加者の年齢層に合わせた年表を作成しておく）など

時間	アクティビティの展開	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	※スケジュールを板書しておく。
：	○ファシリテーター（学習支援者） 自己紹介、主旨・ルールなどの説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。（肖像権）	・机は講義形式
：	○アイスブレイク（雰囲気づくり） 「じゃんけん遊び『にこにこぷん』」 ①目が合ったら「どうもー！」と笑顔で握手、自己紹介して、じゃんけんぽん！ ②勝った人は笑顔で腕を組み「にこにこ」、負けた人は両手で角を出し「ぷんぷん」 ③3回勝った人から、別の列に並んで座る。 ④最初に勝った人と最後まで残った人は、「どう思ったか」を言って、じゃんけん。 ⑤数グループに分ける。	○初対面の人同士の場合、自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 ○早く勝ったら多くの人と出会えない…「負けるが勝ち」価値観逆転のゲーム。	・机を撤去 ・グループ数に応じて、机を配置
：	○タイトル、ねらいを読む。 <思い出しましょう> ○設問①の「私のあゆみ」に記入する。	○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守）、ただし、言いたくないことは話さなくても良い。（パス有り） ○年代に応じて、適当な日本・世界のトピックスの提示。 ※できれば参考資料としてプリントを用意する。模造紙や黒板に書き出しておいても良い。 ※書きたくないことは無理に書かなくても良い。 ※現在から逆算していくと書きやすい。 ※ある程度事前に書いてきてもらうと時間が節約できる。 ※人の記述は見ないことを伝える。	
：	○設問②「ありがとう、ぷんぷん、ごめんなさい」に記入する。	○テストではなく、ワークシートも回収しないので、時間をかけてゆっくり考えて、書いてもらう。	
：	<考えましょう、出し合しましょう> ○設問①に記入し、話し合う。	○親（保護者）への、自分の思いを振り返ってみる。 ※話したくない場合は、無理に話さないで良いことを伝える。	
：	○設問②に記入し、話し合う。	※親になることへの希望が持てるような話し合いにしていく。	
：	<学習を振り返りましょう> ○ワークシートに記入し、話し合う。 ○発表する。 ○ファシリテーターの話	※みんなでいつかは親になるであろうことへの期待や希望が持てるよう、発表の場を設けると良い。 ※時間があれば県民の声も読む。（県民の声は必ずしも「模範解答」ではなく、色々な意見があるということを示すためのもの）	
：	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
〈メモ〉			

<「自分の親は将来の自分」期：「自分が親になるなんて」編－1>

対象（時間）：まもなく親になる人（100分程度）

親になるって！？ ～命を授かる責任と喜び～

【ねらい】子供のいる生活を想像し、親になる心構えを持つ。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙

時間	アクティビティの展開	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可） ○男女混合が良いのか、男女別が良いのかは、あらかじめ決めておく。 ※妊婦さん対象の場合は、過激な運動は避け、気分が悪くなったときに休める場所を用意しておく。	※スケジュールを板書しておく。
： （5分）	○ファシリテーター（学習支援者）自己紹介、主旨・ルールなどの説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。（肖像権）	・机は講義形式
： （10分）	アイスブレイク（雰囲気づくり） 「キャッチ」 ①円をつくり、全員の顔が見えるようにする。 ②全員、左手指で筒をつくり、左隣の人の前にその手を持っていく。 ③全員、右隣の人の左手指の筒の中へ、自分の右手の人差し指を上から入れる。 ④リーダーの「キャッチ」という合図で、自分は右手の人差し指を上から抜こうとし、右隣の人は左手指の筒を締めてキャッチしようとする。これを繰り返す。 ⑤数グループに分ける。 ○グループ内で自己紹介をする。	○初対面の人同士の場合、自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 →「キャ、キャ、キャ、キャ、キャット」など、違う言葉を間に入れて楽しく進める。 →この間にワークシートを配る。	・机を撤去 ・グループ数に応じて、机を配置
： （10分）	○タイトル、ねらいを読む。 <エピソードを読みましよう> ○エピソードを読む。	○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守）、ただし、言いたくないことは話さなくてもよい。（パス有り）	
： （30分）	<考えましよう、出し合いましよう> ○設問①から設問③までに記入し、話し合う。 ○設問④に記入し、話し合う。	○これまでの気持ちの変化、今の気持ちなどについて自由に話し合う。 ○参考資料を見て、気付いたことを出し合い、赤ちゃんとの生活について想像し話し合う。 ※赤ちゃんが生まれるのは大変そう。でも、赤ちゃんが生まれるのは楽しみだという希望と喜びが持てるように…。	
： （30分）	<さらに考えましよう> ○設問①に記入し、話し合う。（15分） ○設問②に記入し、話し合う。（15分）	○親となる自分にとっての親について感じたことについて話し合う。 ○どのようなことを協力すると良いか、話し合う。	
： （10分）	<学習を振り返りましよう> ○ワークシートに記入する。 ○グループごとに発表 ○ファシリテーターの話	※分かったことや考えが変わったことなどを話してもらい、全員で振り返ることができると良い。（参加者の様子を良く見ておくことが必要。）	
： （5分）	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
〈メモ〉			

<「自分の親は将来の自分」期：「自分が親になるなんて」編-2>

対象（時間）：まもなく親になる人（100分程度）

妊娠期のカラダとココロ ～パートナーの理解と協力～

【ねらい】 妊娠期の女性の体と心の変化を理解し、男女の相互理解と支え合いの大切さを考える。

【準備物】 学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙

時間	アクティビティの展開	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可） ○男女混合が良いのか、男女別が良いのかは、あらかじめ決めておく。 ※妊婦さん対象の場合は、過激な運動は避け、気分が悪くなったときに休める場所を用意しておく。	※スケジュールを板書しておく。
： （5分）	○ファシリテーター（学習支援者） 自己紹介、主旨・ルールなどの説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。（肖像権）	・机は講義形式
： （10分）	アイスブレイク（雰囲気づくり） 「拍手でグループ」 ①リーダーが拍手を打った数の人数でグループになる、簡単なゲーム。 （「もしもし亀よ」など簡単な歌を歌い、参加者は歩き回りながら、途中で適当な回数を打ってもよい。） ②グループが出来なかった人は、自己紹介して次のリーダーになる。 ③数グループに分ける。 ○グループ内で自己紹介をする。	○初対面の人同士の場合、自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 →この間にワークシートを配る。	・机を撤去 ・グループ数に応じて、机を配置
： （40分）	○タイトル、ねらいを読む。 <エピソードを読んで、考えましょう> ○エピソード①を読みワークシートに記入し、話し合う。 ○エピソード②を読みワークシートに記入し、話し合う。 ○エピソード③を読む。	○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守）、ただし、言いたくないことは話さなくて良い（パス有り） ○①から③まで段落ごとに区切って読み進める。 →参加者に音読してもらう。	
： （30分）	<考えましょう、出し合いましょう> ○設問に記入し、グループで話し合う。 ○話し合ったことを紹介する。	※ファシリテーターは、自分の体験談を交えてもよい。 ※会場の雰囲気により、参加者へのインタビューを交えてもよい。	
： （10分）	<学習を振り返りましょう> ○ワークシートに記入する。 ○ファシリテーターの話	※分かったことや考えが変わったことなどを話してもらい、全員で振り返ることができるが良い。（参加者の様子を良く見ておくことが必要。）	
： （5分）	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
〈メモ〉			

<「自分の親は将来の自分」期：「自分が親になるなんて」編-3>

対象（時間）：まもなく親になる人（110分程度）

出産は初めの一步！ ～思い描こう、赤ちゃんのいる生活～

【ねらい】これから始まる子育て生活への心構えや態勢づくりについて考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙、はちまき（又はタオル）数本

時間	アクティビティの展開	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	※スケジュールを板書しておく。 ・机は講義形式
： (5分)	○ファシリテーター（学習支援者） 自己紹介、主旨・ルールなどの説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。（肖像権）	
： (10分)	アイスブレイク（雰囲気づくり） 「はちまき回し」 ①円を作って、適当な人数にはちまきを渡す。 ②はちまきを持った人は、はちまきを締め、手をつ叩いて、はちまきを解いて右隣の人に渡す。これを繰り返す。 ③2本のはちまきが同じ人に集まったら、その人は負け。自己紹介をする。 ④数グループに分ける。 ○グループ内で自己紹介をする。	○初対面の人同士の場合、自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 ※早く回したり、ゆっくり回したりして、誰かの所に集まるように工夫しても面白い。 →この間にワークシートを配る。	・机を撤去 ・グループ数に応じて、机を配置
： (30分)	○タイトル、ねらいを読む。 <エピソードを読みましよう> ○「エピソード1」 一人一人が黙読をした後、役割読みをする。 ○設問①に記入し、話し合う。 ○設問②に記入し、話し合う。	○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守）、ただし、言いたくないことは話さなくても良い。（パス有り） ○エピソード1を読む。 ※日頃感じていることや思っていることも含めて、リラックスして自由に話し合う。 ※話し合いのポイントは、グループで決めても良いし、提示しても良い。 ※赤ちゃんのいる生活は、これまでの生活のリズムとは大きく違ってくことに気付けると良い。	
： (40分)	○「エピソード2」 一人一人が黙読をした後、役割読みをする。 ○設問①、②に記入し、話し合う。 ○どんな話をしたかを紹介する。	○例や参考資料を見て、赤ちゃんとの暮らしをどのように感じ、考えているか出し合う。 ※赤ちゃんの成長には個人差があり、行事は地域や家族の考え方によって異なることを充分伝える。	
： (5分)	<さらに考えましよう>	※赤ちゃんのいる生活に向け、どんな準備をしていくと良いのか話し合うことによって、親になる心構えができてくると良い。	
： (15分)	<学習を振り返りましよう> ○ワークシートに記入する。 ○ファシリテーターの話	※参加者の様子を見て、可能であれば、学習を終えて感じたことや思ったことなど、話してもらおう。 ※時間があれば、県民の声も読む。（県民の声は必ずしも「模範解答」ではなく、色々な意見があるということを示すためのもの）	
： (5分)	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
〈メモ〉			

<「自分の親は将来の自分」期：「自分が親になるなんて」編-3>

対象(時間)：まもなく親になる人(110分程度)

出産は初めの一步！ ～思い描こう、赤ちゃんのいる生活～

【ねらい】これから始まる子育て生活への心構えや態勢づくりについて考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙、はちまき(又はタオル)数本

時間	アクティビティの展開	留意点	備考
：	○名札付け(来た順に)	○全員が名札をつける。(ニックネーム可)	※スケジュールを板書しておく。 ・机は講義形式
： (5分)	○ファシリテーター(学習支援者)自己紹介、主旨・ルールなどの説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。(肖像権)	
： (10分)	アイスブレイク(雰囲気づくり) 「はちまき回し」 ①円を作って、適当な人数にはちまきを渡す。 ②はちまきを持った人は、はちまきを締め、手をつ叩いて、はちまきを解いて右隣の人に渡す。これを繰り返す。 ③2本のはちまきが同じ人に集まったら、その人は負け。自己紹介をする。 ④早く回したり、ゆっくり回したりして、誰かの所に集まるように工夫しても面白い。 ⑤数グループに分ける。 ○グループ内で自己紹介する。	○初対面の人同士の場合、自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 →この間にワークシートを配る。	・机を撤去 ・グループ数に応じて、机を配置
： (10分)	○タイトル、ねらいを読む。 <エピソードを読みましよう> ○一人一人黙読した後、音読する。	○三つの約束(発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守)、ただし、言いたくないことは話さなくても良い。(パス有り) ※参加者に「先輩ママさんの体験談」を読んでもらっても良い。	
： (40分)	<考えましよう、出し合いましよう> ○設問①を記入し、話し合う。 ○どんな話をしたかを紹介する。 ○設問②を記入し、話し合う。	※日頃感じていることや思っていることも含めて、リラックスして自由に話し合う。 ※話し合いのポイントは、グループで決めても良いし、提示しても良い。 ※赤ちゃんのいる生活は、これまでの生活のリズムとは大きく違ってくることに気付けると良い。	
： (30分)	<さらに考えましよう> ○設問に記入後、話し合う。 ○グループでどんな話をしたか、紹介する。	※話し合いのポイントは、グループで決めても良いし、提示しても良い。 ※赤ちゃんのいる生活に向け、どんな準備をしていくと良いのか話し合うことによって、親になる心構えができてくると良い。	
： (10分)	<学習を振り返りましよう> ○ワークシートに記入する。 ○ファシリテーターの話	※参加者の様子を見て、可能であれば、学習を終えて感じたことや思ったことなどについて話してもらおう。 ※時間があれば、県民の声も読む。(県民の声は必ずしも「模範解答」ではなく、色々な意見があるということを示すためのもの)	
： (5分)	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
〈メモ〉			

<「過ぎてしまえば一番幸せ」期：「ヘトヘトでもニコリ」編-1>

対象（時間）：0～2歳児の親（100分程度）

私の時間、子供の時間 ～つくってますか？ 心のゆとり～

【ねらい】多忙な育児のなかで心にゆとりを持てるよう、上手な時間の使い方について考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙

（必要に応じてA3用紙、フェルトペン（裏写りのしないもの））

時間	アクティビティの展開	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	※スケジュールを板書しておく。 ・机は講義形式
（5分）	○ファシリテーター（学習支援者） 自己紹介、主旨・ルールなどの説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。（肖像権）	
（10分）	アイスブレイク（雰囲気づくり） 「今朝のお目覚めは何時!？」 ①今朝の起床時間でチェーンづくり ②今朝起きた時間の早い順に円に並ぶ。 その際、声を出さず、手振り身振りで他の人と会話を交わす。 ③並び終わったところで時間どおりに並ぶことができたか確かめながら自己紹介する。 ④数グループに分ける。 ○グループ内で自己紹介をする。	○初対面の人同士の場合、自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 ※時間があれば、ゲームの最後に「24時間自分だけの時間とお金があればほしいこと」を、一人ずつ簡単に紹介する。 →この間にワークシートを配布する。	・机を撤去 ・グループ数に応じて、机を配置
（15分）	○タイトル、ねらいを読む。 <記入しましょう> ○スケジュール表に記入する。 ○子供のための時間、その他の家族のための時間、自分のための時間うち、使っているところに○印を付ける。 <考えましょう> ○設問①、②に記入し、話し合う。	○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守）、ただし、言いたくないことは話さなくても良い。（パス有り） ※「昨日の私」を思い出してみる。 ○グループでお互いのタイムスケジュール表を見せ合い、話し合う。 ※時間や行動はプライバシーなので、見せ合う際に了解を取る。（表は見せ合わず、自分の気付きを発表しても良い。）	
（45分）	<出し合しましょう> ○設問①に記入し、話し合う。 ○設問②に記入し、話し合う。 ○グループごとに話し合いの内容を紹介し、意見交換をする。	※「時間の使い方であつた事は?」、「自分が自由に使える時間はどのくらいありましたか?」「今後どんなふうに使ってみたいですか?」などの補助的な説明をする と良い。 ※工夫できそうなことを用紙にまとめ、見せながら紹介すると分かりやすい。	
（5分）	○【参考までに】を読む。		
（15分）	<学習を振り返りましょう> ○ワークシートに記入 ○ファシリテーターの話	※時間があれば県民の声も読む。（県民の声は必ずしも「模範解答」ではなく、色々な意見があるということを示すためのもの）	
（5分）	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
〈メモ〉			

<「過ぎてしまえば一番幸せ」期：「ヘトヘトでもニッコリ」編-2>

対象（時間）：0～2歳児の親等（110分程度）

お付き合いって難しい?!～「私と周り」の人間関係を考える～

【ねらい】自分と周囲の人間との関係を良好にすることについて考える。

【準備物】学習者：ワークシート、筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙、フェルトペン（裏写りしないもの）、A3用紙、マグネット、ホワイトボード

時間	アクティビティの展開	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	※スケジュールを板書しておく。 ・机は講義形式
： （5分）	○ファシリテーター（学習支援者）自己紹介、主旨・ルールなどの説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を得る。（肖像権）	
： （20分）	アイスブレイク（雰囲気づくり） 「バースデーチェーン」 ①黙ったまま、身振り手振りで並び、一つの円を作る。 ②前から番号をかけ、グループ分け「否定・肯定」 ①二人組みになり、まず自己紹介。 ②一方が1分間話しかけ、他方は「否定的なイヤ～な態度」（腕組み、貧乏ゆすり、きょろきょろ、相手の目を見ない、後ろを向く、携帯電話をつつくなど）でまじめに聞かない。 ③交代して同じことをする。 ④次に、やはり1分間話しかけ、今度は「肯定的ないい態度」（笑顔、うなづく、相槌を打つ、相手の言葉を繰り返すなど）で一生懸命に聞く。 ⑤交代して同じことをする。 ○グループの中で自己紹介をする。	○コミュニケーションに関わるゲームを通して、人間関係作りに大切なことを体験的に考える。 ○「〇月〇日生まれの〇〇です」と、簡単に自己紹介し、順番が途切れず一つの円が作れているか確かめる。 ○1グループ4、5人ずつのグループを作る。 ○話すことは、参加者自身のこと、子供や家族のことなどどんなテーマでも良い。聞き方に変化を付けることを伝える。 →30秒前、10秒前にアナウンスを入れる。 →同じ1分だが、どちらの時間が短く感じられたかを尋ねる。聞き方ですいぶん気持ちが違うことに気付く。 →この間にワークシート配付	・机を撤去 ・グループ数に応じて、机を配置
： （5分）	○タイトル、ねらいを読む。 <エピソードを読みましよう> ○エピソードを読む。	○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守）、ただし、言いたくないことは話さなくてもよい。（パス有り） ○役割読みなど、参加者が読んでも良い。	
： （15分）	<考えましよう、出し合いましよう> ○設問①から③まで記入する。 ○設問①、②を合わせて話し合う。 ○設問③について話し合う。	○公園でのヒロミさんや話しかけてくれた人の気持ちに話し合う。 ○設問①、②を話し合った後に、設問③について話し合う。	
： （25分）	<さらに考えましよう> ○設問①に記入し、話し合う。 ○設問②に記入し、話し合う。	※家族や親戚などの関係について出し合うため、参加者の様子を良く見て配慮する。	
： （30分）	<グループで話し合いましよう> ○「人間関係を良好にするための3か条」について話し合う。 ○各グループの「3か条」を紹介し、意見交換をする。	○グループで考えた「3か条」を用紙に書き、それをもとに紹介する。 ※資料を参考としても良い。 ○紹介後、ホワイトボードなどに貼ると、他のグループの意見が分かりやすい。	
： （10分）	<学習を振り返りましよう> ○ワークシートに記入する。 ○ファシリテーターの話	※時間があれば、県民の声も読む。（県民の声は必ずしも「模範解答」ではなく、色々な意見があるということを示すためのもの）	
	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
〈メモ〉			

<「過ぎてしまえば一番幸せ」期：「ヘトヘトでもニコリ」編-3>

対象（時間）：0～2歳児の親（100分程度）

ワイワイ、キヤーキヤー！！ ～「子供と遊び」について考える～

【ねらい】情報や意見を交流し、子供を豊かに育む遊びについて考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙

（必要に応じて、模造紙、フェルトペン（裏写りしないものなど））

時間	アクティビティの展開	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	※スケジュールを板書しておく。
：	○ファシリテーター（学習支援者） 自己紹介、主旨・ルールなどの説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。（肖像権）	・机は講義形式
：	（5分）		
：	（10分）		
：	アイスブレイク（雰囲気づくり） 「あと出しじゃんけん」 ①リーダーは「私に負けてください」と言ってからジャンケンポンで出す。 ②それを見て、皆は負けるものを出す。（勝ってしまった人が負けになる。） ③同様に、「あいこで」「勝ってね」と言いながら、繰り返す。 ④子供の年齢順の輪になり自己紹介 「わん・にゃ～・ぶーでグループ分け」 ・分けたいグループの数だけ動物の鳴き声を選び（例：「わん」「にゃ～」「ぶー」など）、輪の端から順に割り振りをして、同じ鳴き声の人同士でグループを作る。 ⑤グループ内で自己紹介をする。	○初対面の人同士の場合、自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 →この間に、ワークシートを配る。	・机を撤去 ・グループ数に応じて、机を配置
：	（20分）		
：	○タイトル、ねらいを読む。 <書き出しましょう> ○ワークシートに記入する。 ○あそびについてグループで話し合い、話し合ったことを紹介する。 ○遊びやオススメの遊び場所などの情報を交換する。	○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守）、ただし、言いたくないことは話さなくても良い。（パス有り） ○自分の子供の好きな遊びを、年齢ごとに屋外と屋内とに分けて書き出す。 ※時間があれば、模造紙に一つの表でまとめると、分かりやすい。	
：	（50分）		
：	<考えましょう、出し合いましょう> ○設問①、②に記入し、話し合う。（15分） ○話し合ったことを紹介する。（5分） ○設問③のテーマを決めて、話し合う。（20分） ○話し合ったことを紹介する。（10分）	○色々な遊びがあることを知るための情報交換をする。 ※発達段階には個人差があることに留意し、「いつごろ、何が、できた、できない」ということのみこだわらないようにする。 ※話し合いながら、記入しても良い。 ※例の中からグループで話し合ってテーマを決めても良い。また、状況に応じてあらかじめテーマを決めておいても良い。テーマが決まれば、四角の中にテーマを書き入れると、共通の意識を持って話し合いができる。	
：	（10分）		
：	<学習を振り返りましょう> ○ワークシートに記入する。 ○ファシリテーターの話	○参考資料を読み、学習を振り返る。 ※手あそびや手作りのおもちゃなどのあそび方や作り方を紹介するのも良い。	
：	（5分）		
：	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
〈メモ〉			

<「過ぎてしまえば一番幸せ」期：「クタクタでもワッハッハ」編-1>

対象（時間）：3～6 歳児の親（100 分程度）

買って買って！！ ～さあ困った！あなたなら～

【ねらい】子供の気持ちを受けとめる親の役割の大きさについて考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙、模造紙、付箋（3色）、フェルトペン（裏写りのしないもの）

時間	アクティビティの展開例	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	※スケジュールを 板書しておく。 ・机は講義形式
： （5分）	○ファシリテーター（学習支援者） 自己紹介、主旨・ルールなどの説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。（肖像権）	
： （15分）	アイスブレイク（雰囲気づくり） 「鬼なしフルーツバスケット」 ①椅子を円形に並べて参加者は着席する。 ②ファシリテーター（学習支援者）が中央に立ち参加者に共通するような条件を言い、当てはまる人は席を移動してもらう。 （隣同士の移動は×。当てはまらない場合は座ったまま動かない。） ③何回か繰り返す、場の雰囲気が和んだら5、6人のグループにする。 ④「名前と好きな食べ物」で自己紹介する。	○初対面の人同士の場合、自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 ※共通するような条件の例（「子供は一人」「○○したことがある」「○○が好き」など、できるだけ楽しいものにする。） →この間に、ワークシートを配る。	・机を撤去 ・グループ数に応じて、机を配置
： （5分）	○タイトル、ねらいを読む。 <エピソードを読みましよう> ○まず各自で黙読する。 ○次に参加者が音読する。	○場の情景を思い浮かべ読み込む。	
： （20分）	<考えましよう> ○設問に記入後、グループで話し合う。 （15分） ○話し合ったことを紹介する。（5分）	○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守）、ただし、言いたくないことは話さなくてもよい。（パス有り） ○同じような経験をしたことがないか振り返り、自分の生活と照らし合わせながら考える。 ○エピソードに沿って話し合う。 ○どんなことを話したか表す。「感じたこと」「このような状況になった理由」「どのような対応をするか」の全ての発表でも良いし、焦点を絞っても良い。	
： （30分）	<考えましよう、出し合いましよう> ○表（または、付箋紙）に記入した後、話し合う。 （20分） ○グループで話し合ったことを紹介し、意見交換をする。 （10分）	○「困ったこと」「どうしてそうなったのか」を付箋紙に書き出し合う。 ※付箋紙の色を項目ごとに変える。 ※付箋紙には、1枚に1つ考えたことを書くことを伝える。 ○「どうしたら良いか」、対応を別な色の付箋紙に書き、出し合いながら話し合う。 ○困った時にどのような対応をしているか、どのような対応ができると良いかなど、話し合ったことを紹介する。	
： （10分）	<さらに考えましよう> ○当てはまる項目に○を付け、意見交換する。	○チェックリストを説明し、自分の対応方法をチェックして振り返る。 ※時間がなければ、後で各自でやってもらう。	
： （10分）	<学習を振り返りましよう> ○ワークシートに記入する。 ○ファシリテーターの話		
： （5分）	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
〈メモ〉			

<「過ぎてしまえば一番幸せ」期：「クタクタでもワッハッハ」編-1>

対象（時間）：3～6歳児の親（100分程度）

こんな時、どうする？ ～子供の気持ちを受け止める～

【ねらい】子供の気持ちを受けとめる親の役割の大きさについて考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙、模造紙、付箋紙、フェルトペン（裏写りのしないもの）

時間	アクティビティの展開例	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	※スケジュールを板書しておく。
（5分）	○ファシリテーター（学習支援者）自己紹介、主旨・ルールなど説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。（肖像権）	・机は講義形式
（15分）	アイスブレイク（雰囲気づくり） 「鬼なしフルーツバスケット」 ①椅子を円形に並べて参加者は着席する。 ②ファシリテーター（学習支援者）が中央に立ち参加者に共通するような条件を言い、当てはまる人は席を移動してもらう。（隣同士の移動は×。当てはまらない場合は座ったまま動かない。） ③以上を何回か繰り返し、場の雰囲気が和んだら5、6人のグループにする。 ④「名前と好きな食べ物」で自己紹介する。	○初対面の人同士の場合、自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 ※共通するような条件の例（「子供は一人」「○○したことがある」「○○が好き」など出来るだけ楽しいものにする。） →この間に、ワークシートを配る。	・机を撤去
（5分）	○タイトル、ねらいを読む。 <エピソードを読みましよう> ○まず各自で黙読する。 ○次に参加者が音読する。	○場の情景を思い浮かべ読み込む。	
（20分）	<考えましよう> ○設問に記入し、話し合う。（15分） ○話し合ったことを紹介する。（5分）	○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守）、ただし、言いたくないことは話さなくても良い。（パス有り） ○同じような経験をしたことがないか振り返り、自分の生活と照らし合わせながら考える。 ○エピソードに沿って話し合う。 ○どんなことを話したか紹介する。「感じたこと」「このような状況になった理由」「どのような対応をするか」の全てでも良いし、焦点を絞っても良い。	
（30分）	<考えましよう、出し合いましよう> ○子供が困ったことをした時、どのように対応すればなど表に書き入れる。（15分） ○話し合ったことを紹介する。（10分）	○「困ったこと」「どうしてそうなったのか」を付箋紙に書き出し合う。 ※付箋紙の色を項目ごとに変える。 ※付箋紙には、1枚に1つ考えたことを書くことを伝える。 ○「どうしたら良いか」、対応を別な付箋紙に書き、出し合いながら話し合う。 ○困った時にどのような対応をしているか、どのような対応ができると良いかなどについて話し合ったことを紹介する。	
（10分）	<さらに考えましよう> ○当てはまる項目に○を付け、意見交換する。	○チェックリストを説明し、自分の対応方法をチェックして振り返ってもらう。 ※時間がなければ、後ほど各自でやってもらう。	
（10分）	<学習を振り返りましよう> ○ワークシートに記入する。 ○ファシリテーターの話		
（5分）	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
〈メモ〉			

<「過ぎてしまえば一番幸せ」期：「クタクタでもワッハッハ」編－2>

対象（時間）：3～6歳児の親（110分程度）

〇〇ちゃんがするっ！！ ～自我の芽生えと親の思い～

【ねらい】子供の思いに寄り添い、自主性を伸ばすために、親がどう支援すれば良いかを考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙、模造紙、フェルトペン（裏写りのしないもの）（必要に応じて付箋紙）など

時間	アクティビティの展開例	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	※スケジュールを板書しておく。 ・机は講義形式
： （5分）	○ファシリテーター（学習支援者） 自己紹介、主旨・ルールなど説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。（肖像権）	
： （15分）	アイスブレイク（雰囲気づくり） 「誕生日でチェーンづくり」 ①生まれた月日の若い順に一重円に並ぶ。（声は出さず、手振り身振りです。） ②並び終わったところで、正しく並ぶことができたか確かめあいながら、自己紹介をする。 ③数グループに分ける。 ○グループ内で自己紹介する。	○初対面の人同士の場合、自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 →この間に、ワークシートを配る。	・机を撤去 ・グループ数に応じて、机を配置
： （20分）	○タイトル、ねらいを読む。 <マンガを読んで考えましょう> ○黙読 ○設問①、②に記入し、話し合う。	○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守）、ただし、言いたくないことは話さなくてもよい。（パス有り） ※役を決めてセリフを読んでも良い。	
： （25分）	<考えましょう、出し合ひましょう> ○設問①に記入し、話し合う。	○それぞれ1つの枠に書いてもらう。（残りの枠は、グループの他の人の意見を記入する。） →すぐにやめた子供の気持ち、どうしてもやりたがる子供の気持ちについて考える。	
： （25分）	○設問②に記入し、グループで話し合う。 ○話し合ったことについて紹介する。	○子供の気持ちを理解しながら、親の気持ちをどう伝えれば良いかを考える。 ○親の気持ちを上手に子供に伝える方法などについて話し合い、模造紙に書くと分かりやすい。 ※付箋紙に書き出して、書いたことを模造紙に貼りながら話しても分かりやすい。	
： （15分）	<学習を振り返りましょう> ○ワークシートに記入する。 ○ファシリテーターの話	※参考資料や県民の声も読む。（県民の声は必ずしも「模範解答」ではなく、色々な意見があるということを示すためのもの）	
： （5分）	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
〈メモ〉			

<「過ぎてしまえば一番幸せ」期：「クタクタでもワッハッハ」編-3>

対象（時間）：3～6歳児の親（105分程度）

もうすぐ小学生！ ～これまでの子育てを振り返る～

【ねらい】これまでの子育てを振り返り、これからの育て方を考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙

時間	アクティビティの展開例	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	※スケジュールを板書しておく。
： （5分）	○ファシリテーター（学習支援者） 自己紹介、主旨・ルールなどの説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。（肖像権）	・机は講義形式
： （10分）	アイスブレイク（雰囲気づくり） 「勝ち抜きジャンケン」 ①ジャンケンをし、早く5人に勝った人から順に円になる。 ②5人に続けて勝たなくても良い。5回勝てばよい。 ③円の先頭から5～6人のグループにする。 ○グループ内で自己紹介をする。	○初対面の人同士の場合、自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 →ジャンケンをして、多くの参加者とふれ合う。 →分けたいグループの数だけ、番号をかける、同じ番号の人でグループを作る。 →この間にワークシートを配付する。	・机を撤去 ・グループ数に応じて、机を配置
： （20分）	○タイトル、ねらいを読む。 <考えましょう、出し合いしましょう> ○設問①、②に記入し、グループで話し合う。	○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守）、ただし、言いたくないことは話さなくても良い。（パス有り） ○これまでの子育てで楽しかったこと、感動したこと、また、困ったり悩んだりしたことを思い出してき、これまでの子育てを振り返る。	
： （20分）	○設問③に記入し、グループで話し合う。	○子供の良いところを、できるだけたくさん書き出してもらおう。3つ以上は書いてもらおう。 →子供を様々な視点から見て、良いところを一つでも多く見つけるように声をかける。子供の成長を感じることができると良い。	
： （20分）	○設問④に記入し、グループで話し合う。	○どんなことに挑戦させてみたいか、紹介し合う。 ○希望を持って小学校への入学を迎える気持ちになれるような雰囲気を作る。 ○お互いの思いを出し合い、話し合いを通して、自分の子育てについて考える。	
： （10分）	○参考資料、「県民の声」を読む。	※県民の声は必ずしも「模範解答」ではなく、色々な意見があるということを示すためのもの。	
： （15分）	<学習を振り返りましょう> ○ワークシートに記入する。 ○ファシリテーターの話	○時間があれば、何人かに一言感想を言ってもらおう。	
： （5分）	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
〈メモ〉			

<「過ぎてしまえば一番幸せ」期：「クタクタでもワッハッハ」編-3>

対象(時間)：小学1～3年生の親(110分程度)

もうすぐ小学生！ ～期待と不安の中味とは？～

【ねらい】新入学に向けて親が抱いている子供への期待と不安を整理し、親子で取り組めることについて考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙、A3用紙、フェルトペン(裏書きしないもの)、
マグネット、ホワイトボード、

時間	アクティビティの展開	留意点	備考
：	○名札付け(来た順に)	○全員が名札をつける。(ニックネーム可)	※スケジュールを板書しておく。 ・机は講義形式
：	○ファシリテーター(学習支援者) 自己紹介、主旨・ルールなどの説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。(肖像権)	
(5分)			
：	アイスブレイク 「歌いましょう」 ※♪ドキドキドン1年生♪、♪1年生になったら♪など、小学校入学にふさわしい歌を歌ってみましょう！ ○数グループに分ける。 ○グループ内で自己紹介をする。	○初対面の人同士の場合、自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 ○楽器や手拍子などで盛り上げる。 ○歌詞は主催者で準備する。(著作権に配慮) ※受講生の必要最低部数であれば、コピーが許される。 →この間にワークシートを配付する。	・机を撤去 ・グループ数に応じて、机を配置
(7分)			
：	○タイトル、ねらいを読む。 <エピソードを読みましよう> ○黙読する。	※黙読の後、代表の人に読んでもらっても良い。	
(3分)			
：	<考えましよう、出し合いましよう> ○設問①に記入し、話し合う。(10分) ○話し合ったことを紹介する。(5分) ○設問②・③に記入し、話し合う。(20分) ○話し合ったことを紹介する。(10分)	○三つの約束(発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守)、ただし、言いたくないことは話さなくても良い。(パス有り) ○今やっている入学の準備はどんなことをしているか、グループの中で情報交換をする。 ○期待していること、不安なことなど、親の気持ち、子供の様子について話し合う。 ※親の期待や不安は必ずしも「子供自身の期待や不安」を踏まえたものではないこと、子供自身の期待や不安に寄り添うことが大事であることに気付いてもらう。	
(45分)			
：	<さらに考えましよう> ○入学に向けてどんなことができるか、ワークシートに記入し、話し合う。(20分) ○話し合ったことを紹介する。(10分)	○持ち物の準備だけでなく、子供が小学校への入学を楽しみにできるように、入学に向けてどんなことを大切にして生活すると良いか、話し合う。 ※子供だけでなく、親としての心構えも話し合えると良い。 ○話し合ったことをA3用紙に書く。 ※書いたことを見せながら紹介し、ホワイトボードなどに貼っておくと良い。	
(30分)			
：	○参考資料を見て話し合う。	○グラフを見て気付いたことを出し合ったり、小学校入学前に身に付けておきたいことを読んだりする。 ※時間がない場合は、後で読んでおいてもらう。	
(5分)			
：	<学習を振り返りましよう> ○ワークシートに記入する。 ○ファシリテーターの話		
(10分)			
：	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
(5分)			
〈メモ〉			

＜「過ぎてしまえば一番幸せ」期：「ワクワク・ドキドキ」編－1＞

対象（時間）：小学1～3年生の親（120分程度）

親子でやってみよう！ ～楽しい小学校生活を過ごすために～

【ねらい】子供が新しい環境に慣れ、小学校生活を楽しく過ごすために、親子で取り組めることについて考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙、A3用紙、フェルトペン（裏書きしないもの）

時間	アクティビティの展開	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可） ※名札をグループごとに色分けをし、同じ色の人同士でグループになる。	※スケジュールを板書しておく。 ・机は講義形式
： （5分）	○ファシリテーター（学習支援者） 自己紹介、主旨・ルールなどの説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。（肖像権）	
： （10分）	アイスブレイク 「グループじゃんけん」 ①各グループにカードを渡す。 ②グループで何を出すかを考え、2グループずつでじゃんけんをする。（グループ全員、同じものを出す） ③勝ったら、相手グループからカードをもらう。 ④たくさんのカードが集まったグループが勝ち。	○グループで話し合っ、出すじゃんけんを考えることで、雰囲気や和らげる。 ○グループ全員で声を合わせて、じゃんけんを出す。	・机を撤去 ・グループ数に応じて、机を配置
： （5分）	○タイトル、ねらいを読む。 ＜エピソードを読みましよう＞	○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守）、ただし、言いたくないことは、話さなくても良い。（パス有り） ○各自黙読した後、役割を決めて読み合わせる。	
： （35分）	＜考えましよう、出し合いましよう＞ ○設問①～③に記入する。（10分） ユイちゃんのことばや、母親の言動について、思いや考えを書く。 ○記入したことをもとに、主に忘れ物に関連したことについて話し合う。 (20分) ○話し合ったことを紹介する。（10分）	○話し合いは、まずは、忘れ物（学習道具の準備の仕方など）に関連したことを話し合う。他の要素については、「さらに考えましよう」で話し合う。 ・「お母さんが入れてくれなかった」というユイちゃんのことば ・「…」の母親の思い ・ユイちゃんは、忘れ物をしたことを先生に叱られたから「学校に行きたくない。」と言っているとしたら ・わが家の「子供の忘れ物対策」 など	
： （50分）	＜さらに考えましよう＞ ○設問①に記入し、話し合う。（20分） ○設問②に記入し、話し合う。（20分） ○話し合ったことを紹介する。（10分）	※無理に書いたり、話したりしなくても良いことを伝える。誰もが困ったり、悩んだりしながら子育てをしていることを共有できると良い。 ○話し合ったことを用紙にまとめる。 ※用紙を見せながら、紹介すると良い。	
： （10分）	＜学習を振り返りましよう＞ ○ワークシートに記入する。 ○ファシリテーターの話	※時間があれば参考資料を読む。	
： （5分）	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
〈メモ〉			

<「過ぎてしまえば一番幸せ」期：「ワクワク・ドキドキ」編－2>

対象（時間）：小学1～3年生の親（110分程度）

くらべないで！ ～同じ子供なんて一人もいない～

【ねらい】他の子供と比べることの功罪を考え、自分の子が持つかけがえのない価値を再認識する。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙、A4用紙（人数分）、フェルトペン（裏写りしないもの）

時間	アクティビティの展開	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	※スケジュールを板書しておく。 ・机は講義形式
： （5分）	○ファシリテーター（学習支援者） 自己紹介、主旨・ルール等説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。（肖像権）	
： （10分）	アイスブレイク（雰囲気づくり） 「いいとこさがし」 ①紙に大きく自分の名前と長所短所を一つずつ書く。 ②ペアを作り、紙を交換する。 ③長所はさらに、短所は長所に言い換えて、相手を褒める。 ④3つのペアを組み合わせて、グループを作る。 ⑤ペアの相手の人の紹介をする。	○初対面の人同士の場合、自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 ○自分では短所と思っていたことが、実は長所にもなり得ることを実感する。 →この間にワークシートを配付する。	・机を撤去 ・グループ数に応じて、机を配置
： （55分）	○タイトル、ねらいを読む。 <考えましょう、出し合ひましょう> ○設問①、②、③に記入し、話し合う。（15分） ○設問④、⑤、⑥、⑦に記入し、話し合う。（15分） ○設問⑧、⑨に記入し、話し合う。（15分） ○話し合ったことを紹介し合う。（10分）	○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守）、ただし、言いたくないことは話さなくて良い。（パス有り） →「学力」というモノサシに縛られている自分を実感する。 →日常での「くらべる」ことの多さに気付く。 →「くらべる」ことの功罪について、考えを広げ、深める。 ※「くらべることはいけない」という価値の押し付けにならないように、配慮する。	
： （20分）	<さらに考えましょう> ○文章を読む。 ○フリートーキング	※家庭教育手帳や参考資料や詩を見て、感想などを自由に話し合う。 ※参加者に読んでもらっても良い。	
： （15分）	<学習を振り返りましょう> ○ワークシートに記入する。 ○ファシリテーターの話	※「私と小鳥と鈴と」をみんなで読んでまとめとしても良い。	
： （5分）	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
〈メモ〉			

<「過ぎてしまえば一番幸せ」期：「ワクワク・ドキドキ」編-3>

対象（時間）：小学1～3年生の親（120分程度）

みなおして！ ～多様な視点から子供を見る～

【ねらい】多様な視点から見ることにより、心に余裕が生まれることに気づく。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙、付箋紙、模造紙、フェルトペン（裏写りしないもの）

時間	アクティビティの展開	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	※スケジュールを板書しておく。 ・机は講義形式
： （5分）	○ファシリテーター（学習支援者） 自己紹介、主旨・ルールなどの説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。（肖像権）	
： （10分）	アイスブレイク（雰囲気づくり） 「負け負けじゃんけん」 ①ペアになり、じゃんけん先に出す方を決める。 ②じゃんけんぽんで、先手は先に出す。後手はそれに勝つものを出す。（1分間続ける。） ③次に、後手は負けるものを出す。（1分間続ける。） ④先手交代し、同様に。 ⑤勝つのと負けるのと、さてどっちが難しかったですか。 ⑥数グループを作る。 ○グループ内で自己紹介する。	○初対面の人同士の場合、自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 ○じゃんけんは相手に勝とうとするもの。「固定観念（おもいこみ）」をひっくり返す面白さ、難しさを、楽しく体験する。 ※2、3のペアを集めてグループを作ると良い。 →この間にワークシートを配る。	・机を撤去 ・グループ数に応じて、机を配置
： （5分）	○タイトル、ねらいを読む。 <エピソードを読みましよう> ○エピソードを読む。	○配役を決めて、読み合わせると良い。 ○情景が思い浮かぶまで読みこむ。	
： （35分）	<考えましよう、出し合いましよう> ○設問①、②、③、④に記入する。（10分） ○記入したことをもとに設問①から④まで話し合う。（20分） ○話し合ったことを紹介する。（5分）	○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守）、ただし、言いたくないこと話さなくても良い。（パス有り） ○エピソードをもとに話し合い、「ゲーム」や「読書」「勉強」ではどうか話し合う。	
： （50分）	<さらに考えましよう> ○「さらに考えましよう」を読む。 ○思ったこと、気付いたことを話し合う。（5分） ○話し合ったことを紹介する。（10分） ○設問に記入し、話し合う。（25分） ○話し合ったことを紹介し、意見交換する。（10分） ○県民の声を読む。	○代表の人が読み、各自で黙読する。 ○「エピソードについて、違った方向から見てみるとどうでしょうか。」などの補足をしても良い。 ○付箋紙に子供と関わりの中での体験を書き出し、書き出した付箋紙を模造紙に貼りながら、グループで話し合う。 ○記入が難しい場合は、身近な例を示し、意見を出しやすくする。「悩んでいる」ことが、見方や捉え方を変えてみると「良さ」でもあるということなど。（例に流されないように留意する。）また、テーマ（「多様な視点から子供を見る」）をもう一度確認するのも良い。 ○模造紙を見せながら、紹介する。 ※県民の声は必ずしも「模範解答」ではなく、色々な意見があることを示すためのもの	
： （10分）	<学習を振り返りましよう> ○ワークシートに記入する。 ○ファシリテーターの話		
： （5分）	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
<メモ>			

<「親子で登る自立の坂道」期：「子が親離れしていく」編－1>

対象（時間）：小学4～6年生の親（110分程度）

体と心の変化 ～子供の思い、親の戸惑い～

【ねらい】子供の成長に戸惑う自分自身をみつめなおし、自立しようとする子供の気持ちを理解し支えることについて考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙、模造紙（各グループ1枚）、フェルトペン（裏書きしないもの）、マグネット、ホワイトボード、（必要に応じて付箋紙）

時間	アクティビティの展開	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	※スケジュールを板書しておく。 ・机は講義形式
（5分）	○ファシリテーター（学習支援者） 自己紹介、主旨・ルールなどの説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。（肖像権）	
（15分）	アイスブレイク 「あなたの誕生日は？」 ①手遊び（ゲー・チョコキ・パー） ②黙って誕生日順に並ぶ。 ③「1・2・3」の番号 ④同じ数を言った人同士でグループに分かれて自己紹介（「ニックネーム：◇◇と呼ばれています△△です」） ○グループ内で自己紹介をする。	○初対面の人同士の場合、自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 →分けたいグループの数で番号をかける。 →この間にワークシートを配る。	・机を撤去 ・グループ数に応じて、机を配置
（5分）	○タイトル、ねらいを読む。 <エピソードを読みましよう> ○黙読（または音読）	※配役を決めて読んでもおもしろい。	
（10分）	<考えましよう、出し合いましよう> ○設問に記入し、話し合う。	○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守）、ただし、言いたくないことは話さなくて良い。（パス有り）	
（15分）	○設問に記入し、話し合う。	○それぞれ1つの枠に書く。 （残りの枠は、グループの他の人の意見を記入する。） ※付箋紙に書いてもよい。	
（20分）	○「思春期の子供の特徴」「対応方法」を模造紙にまとめる。	○思春期の子供の特徴を考える。 ・様々な子供の様子を知り、色々な対応方法に気づく。 ・自分の対応方法を振り返る。 ※お互いの対応方法を聞き、決してこうあるべきだと押し付けにならないように配慮する。	
（10分）	○グループごとに紹介する。	○模造紙をホワイトボードに貼って、簡単に説明する。	
（10分）	○参考資料や県民の皆さんの声を読む。 ○グループでフリートーク	○資料などを見て、自由に話し合う。 ※県民の声も読む。（県民の声は必ずしも「模範解答」ではなく、色々な意見があるということを示すためのもの）	
（15分）	<学習を振り返りましよう> ○ワークシートに記入する。 ○ファシリテーターの話		
（5分）	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰

<メモ>

<「親子で登る自立の坂道」期：「子が親離れしていく」編－2>

対象（時間）：小学4～6年生の親（120分程度）

どうする？ どういう？ ～子供の人間関係へのかかわり～

【ねらい】子供の交友関係への親の適切なかかわり方について考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙、A3用紙、フェルトペン（裏書きしないもの）

時間	アクティビティの展開	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	※スケジュールを 板書しておく。 ・机は講義形式
： （5分）	○ファシリテーター（学習支援者） 自己紹介、主旨・ルールなどの説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。（肖像権）	
： （10分）	アイスブレイク（雰囲気づくり） 「バースデーチェーン」 ○黙ったまま、身振り手振りで誕生日順 に並び、数グループに分ける。 ○グループ内で自己紹介する。	○コミュニケーションに関わるゲームを通 して、人間関係作りに大切なことを体験的に 考える。 →「〇月〇日生まれの〇〇です」と、簡単に 自己紹介	・机を撤去 ・グループ数に 応じて、机を 配置
： （50分）	○タイトル、ねらいを読む。 <エピソードを読みましよう> ○エピソードを読む。（5分） <考えましよう、出し合いましよう> ○設問①、②に記入し、話し合う。 （15分） ○設問③に記入し、話し合う。（15分） ○話し合ったことを紹介し、意見交換す る。（10分） ○参考資料1について話し合う。（5分）	○各自黙読後、代表の人に読んでもらう。 ○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、 秘密の保守）、ただし、言いたくないことは 話さなくても良い。（パス有り） ○【参考資料1】のグラフを見て、気付いた ことなど意見交換し、子供の友達との様子を 振り返る。	
： （40分）	<さらに考えましよう> ○設問①、②に記入する。（5分） ○グループで話し合う。（25分） ○話し合ったことを紹介する。（10分）	○解決のための、親の関わり方について話し 合う。 ※意見が出にくい場合は、もし、心配なこと や気になることがあった場合どうするかと いう、仮定で話してもらう。 ※話し合う時間を十分に確保する。 ○どんな関わり方をすると良いか、用紙に 書いて紹介する。 →用紙をホワイトボードに貼っておくと分 かりやすい。 ※深刻な事例を話された場合は、最後まで聞 き、話して良かったと思えるよう配慮する。 その後は、解決に向けて学校などの主催者に 報告する。 ○【参考資料2】を読む。子供様子の変化に 気付くための参考にする。	
： （10分）	<学習を振り返りましよう> ○ワークシートに記入する。 ○ファシリテーターの話	※「県民の皆さんの声」を読む。（「県民の 皆さんの声」は、模範解答ではなく、色々な 意見があるということを示すためのもの）	
： （5分）	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
〈メモ〉			

<「親子で登る自立の坂道」期：「子が親離れしていく」編－3>

対象（時間）：小学4～6年生の親（110分程度）

さあ、どっち！？ ～信じる、見守る、待つ、聞く～

【ねらい】 反抗期等多感な時期の子供との接し方から、親子のより良いコミュニケーションの取り方について考える。

【準備物】 学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙、簡単な図形を書いたA4の紙（2種類、人数分）、白紙（人数分）、バインダー（人数分）

時間	アクティビティの展開	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	※スケジュールを 板書しておく。
：	○ファシリテーター（学習支援者） 自己紹介、主旨・ルールなどの説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。（肖像権）	・机は講義形式
：	○アイスブレイク（雰囲気づくり） 「聞いて聞いて」 ①ペアを作り、背中合わせに座る。 ②一人は図形を説明し、一人は一方的に聞き、図形を描く。（1分） ③次に、聞く側に質問権を与えて、図形を修正していく。（2分） ④交代する。 ⑤作品を見せ合い、感想を述べ合う。 ⑥数グループに分ける。	○初対面の人同士の場合、自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 →一方の人は図形を描いた紙を持ち、もう一方の人は白紙を綴じたバインダーを持ち、背中合わせに座る。（図形を見られないように注意する。） →図形を変える。 ○一方通行（聞くだけ）ではなかなか理解できないことを実感し、双方向のコミュニケーションの大切さを考える。 ○「じっと聞く」ことの大切さや適度な相槌や質問が理解を進めることを、実感できるようにする。 →この間にワークシートを配る。	・机を撤去 ・グループ数に応じて、机を配置
：	○タイトル、ねらいを読む。 <マンガを読んで考えましょう> OP2 を読んで設問1に記入し、グループで話し合う。 ○話し合ったことを、紹介する。 OP3 を読んで設問2に記入し、グループで話し合う。 ○話し合ったことを、紹介する。	○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘の保守）、ただし、言いたくないことは話さなくて良い。（パス有り） ○設問3がP2にあるが、P3の設問2の後で考えることを伝える。 ※エピソードは、配役を決めて読み合わせると良い。 ※ワークシートを半分に折ると、場面に集中して考えやすい。	
：	○設問3に記入し、グループで話し合う。 ○話し合ったことを、紹介する。	○頭ごなしに叱る対応が、子供とのコミュニケーションを阻害する可能性について考える。（ただし「叱られてすっきりした」等の意見も大切にすること。） ○「信じる」と「ほったらかしにする」ことの違いについて考える。（「何も聞かず、ただ見てくれていたのがうれしかった」等の意見も大切にすること。） ※時間があれば、グループで出てきた意見を模造紙に書き出すと良い。	
：	○グループで意見交換する ○話し合ったことを紹介する。	○思春期の子供への親として関わり方等について意見交換する。	
：	<さらに考えましょう> ○ゆっくり読む。	※時間があれば県民の声も読む。（県民の声は必ずしも「模範解答」ではなく、色々な意見があるということを示すためのもの）	
：	<学習を振り返りましょう> ○ワークシートに記入する。 ○ファシリテーターの話		
：	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
〈メモ〉			

<「親子で登る自立の坂道」期：「親が子離れできない」編－1>

対象（時間）：中学・高校生の親（120分程度）

思い出してみよう… ～私にもあった青春時代～

【ねらい】自分の青春時代を思い出し、子供の思いに寄り添いつつ言葉を届ける術を考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙、模造紙（各グループ1枚）、フェルトペン（裏書きしないもの）、マグネット、付箋紙

時間	アクティビティの展開	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	※スケジュールを板書しておく。
：	○ファシリテーター（学習支援者） 自己紹介、主旨・ルール等説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。（肖像権）	・机は講義形式
：	アイスブレイク（雰囲気づくり） 「しゃべる運動会」 ①円になって、中学または高校の体育祭の種目を順に思い出して言う。 ②簡単な質問をして「はい」「いいえ」「どちらでもない」でグループに分かれる。 ③最後に、子供の学校（中学 or 高校）または性別にグループ（5～6名）を作る。 ④グループ内で自己紹介をする。	○初対面の人同士の場合、自由に意見出し合うためのウォーミングアップとする。 →「つまったら罰ゲームですよ」などと言いながら。 （ユニークな種目については、簡単に説明してもらおう。） →例）・学生時代の得意な科目 ・思い出せる友人の数 など →この間にワークシートを配付する。	・机を撤去 ・グループ数に応じて、机を配置
：	<考えましょう、出し合ひましょう> ○まず、思い出してみよう」に記入し、話し合う。	○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守）、ただし、言いたくないことは話さなくても良い。（パス有り） ※楽しく、思い出してもらおう。	
：	○設問①に記入し、話し合う。	○自分の子供の頃を振り返りながら、我が子との関係を見つめる。	
：	○設問②を記入する。	○自分はどうのように親と関わっていたか、どのように親のことを感じていたのかを思い出す。 ○周囲の大人の意見を素直に聞けない時期が自分にもあったことを思い出す。 ○自分の経験を通して、子供が悩んでいるとき、「誰に相談するのか」「親にどのように接してほしい」と思っているのかを考える。※周囲の誰か（友人や部活の先輩・担任など）のアドバイスが効果的なケースもある。	
：	○親としてどのような対応をすると良いか話し合う。 ○話し合ったことを紹介し合う。	○「子供に真剣に向き合う親の姿勢」について考える。 →設問②に記入したことをもとに話し合う。 ※参考資料を見て、話し合いのテーマとしても良い。 ※話し合ったことを用紙にまとめると分かりやすい。	
：	<学習を振り返りましょう> ○ワークシートに記入する。 ○ファシリテーターの話		
：	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰

〈メモ〉

<「親子で登る自立の坂道」期：「親が子離れできない」編－2>

対象（時間）：中学・高校生の親（110分程度）

キャッチボールは得意ですか？～気持ちをつたえる 胸の真ん中でうけとめる～

【ねらい】進路選択を巡る親子のロールプレイをとおして、子供と気持ちを通じ合うことの難しさと大切さを学ぶ。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙、フェルトペン（裏写りしないもの）、模造紙、マグネット、ホワイトボード

時間	アクティビティの展開例	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	※スケジュールを板書しておく。 ・机は講義形式
（5分）	○ファシリテーター（学習支援者）自己紹介、主旨・ルール等説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。（肖像権）	
（15分）	アイスブレイク（雰囲気づくり） 「あなたは、Yes or No？」 ①部屋の隅にYesとNoの紙を貼る。 ②質問に対して、参加者は制限時間内にYesとNoに分かれる。 ③参加者にYes・Noの理由等を尋ねる。 ○数グループに分かれる。 ○グループ内で自己紹介する。	○初対面の人同士の場合、自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 →質問（例）「今朝、お子さんと会話をしましたか？」「最近、お子さんと親子喧嘩をしましたか？」「最近、お子さんの下着を買っているのは親（Yes）ですか？子供自身（No）ですか？」など →この間にワークシートを配る。	・机を撤去 ・グループ数に応じて、机を配置
（20分）	<二人一役で演じましょう> ロールプレイ ○2人1組が、親役・子役に分かれる。 ○場面設定を黙読する。 ○アを声に出して読む。 ○同じペアの同じ役で、親役と子役に分かれて、イを声に出して読む。 ○役割を交代して読む。	○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守）、ただし、言いたくないことは話さなくても良い。（パス有り） ○2人1組の親子ペアをつくり、親役には親用の、子役には子用のシナリオを渡す。（シナリオは見せ合わない） ○各自がシナリオを黙読。（場の情景が思い浮かぶまで読みこむ。）その後、役に分かれてロールプレイする。 ○親、子供のどちらも役も経験することで、親の思いを振り返り、子供の思いに気付いていく。 ※最初からワークシートを配らず、親子のセリフは別々にコピーしてお互い見せないように渡し、親子の日常会話を1分間した後で、合図とともにシナリオに入っていき…といったように、工夫する。	
（50分）	<考えましょう、出し合ひましょう> ○設問1に記入し、話し合う。（10分） ○わが子とのコミュニケーションで「大切にしていること」「気をつけていること」などについて話し合う。（30分） ○話し合ったことを紹介し合う。（10分）	※親の考えや思いを一方向的に伝えるだけではなく、子供の気持ちや思いも改めて考える機会とする。 ※話し合ったことを模造紙に書いていくと、整理ができて良い。	
（15分）	<学習を振り返りましょう> ○ワークシートに記入する。 ○ファシリテーターの話		
（5分）	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
〈メモ〉			

<「親子で登る自立の坂道」期：「親が子離れできない」編－3>

対象（時間）：中学・高校生の親（120分程度）

ほどよい距離感って？ ～子供の自立と親の自立～

【ねらい】子供の自立を適切に支援できるような、親の接し方について考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙、付箋紙、模造紙、フェルトペン（裏写りしないもの）

時間	アクティビティの展開例	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	※スケジュールを板書しておく。 ・机は講義形式
（5分）	○ファシリテーター（学習支援者）自己紹介、主旨・ルール等説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。（肖像権）	
（10分）	アイスブレイク（雰囲気づくり） 「似たもの同士に分かれましょう。」 ①簡単な質問をして「はい」「いいえ」でグループに分かれる。 ②それぞれのグループにインタビューをしてみる。 ③数グループに分かれる。 ③グループ内で自己紹介をする。	○初対面の人同士の場合、自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 ○和やかな雰囲気づくりと、スムーズなグループづくりに配慮する。 →例) 子供は男子の方が良い。 子供が自分そっくりだと感じる。 →例) 男子がよいのはなぜですか。 どんなところが、自分そっくりだと感じますか。 →5～6名のグループに編成する。 (この間にワークシートを配付する。)	・机を撤去 ・グループ数に応じて、机を配置
（20分）	<思い出しましょう> ○設問に記入し、話し合う。	○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守）、ただし、言いたくないことは話さなくても良い。（パス有り） ○小さかった子供との関わりを思い出し、乳幼児期、小学生気、現在の親としての思いを見つめ直す。 ○話し合いを通して、子供との関わり方の多様性に気付いていく。	
（10分）	<エピソードを読みましょう> ○エピソードを読む。	○役割を決めて読む。 ○子供との関わり方について振り返る。	
（55分）	<考えましょう、出し合しましょう> ○設問1に記入し、話し合う。（20分） ○設問2に記入し、話し合う。（25分） ○話し合ったことを紹介し合う。（10分）	○子供に真剣に向き合う親の姿勢について考える。（子供が大きくなり、手が離れるようになって、心と目は離さないことを実感してもらう。） ○もっとも身近な大人として、親としての生き方についても考えてみる。 ※付箋紙1枚に1つずつ関わり方を書き、それをグループの人に見せながら話し合い、模造紙に書き出して紹介すると分かりやすい。	
（15分）	<学習を振り返りましょう> ○ワークシートに記入する。 ○ファシリテーターの話	※「県民の皆さんの声」を読む。（「県民の皆さんの声」は、模範解答ではなく、色々な意見があるということを示すためのもの）	
（5分）	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
〈メモ〉			

<「再び子育て，そして親育て」期：『いまどきの親は』なんて言わない』編-1>

対象（時間）：中高年などの子育て支援者（110分程度）

よりそってみて… ～子育て環境の変化を知る～

【ねらい】子育て環境の時代変化を知り，現代における子育て支援について考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札，ワークシート，アンケート用紙，模造紙，付箋紙，フェルトペン（裏写りのしないもの）
マグネット，ホワイトボード

時間	アクティビティの展開例	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	※スケジュールを板書しておく。 ・机は講義形式
（5分）	○ファシリテーター（学習支援者）自己紹介，主旨・ルール等説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は，予め了解を取る。（肖像権）	
（15分）	アイスブレイク（雰囲気づくり） 「一番早く起きたのはだ～れ」 ①言葉を発せず，自分が一番早く起きたと思う順に並んで円を作る。 ②起きた時間と最初にしたことを尋ねる。 ③並んだ順にグループを分ける。 ④グループで自己紹介をする。	○和やかな雰囲気づくりと，スムーズなグループづくりに配慮する。 →遅く起きた人が悪いという印象を与えないように注意し，雰囲気が和らぐコメントを加える。 →グループ数だけの番号をかける。 →この間にワークシートを配る。 ※参加者が同じグループで活動しているなど日常的なつながりがあり，お互いを知っている場合は，「いいところ探し」（相手の良さをたくさん見つけて伝える。）を取り入れても良い。	・机を撤去 ・グループ数に応じて，机を配置
（5分）	○タイトル，ねらいを読む。 <エピソードを読みましよう> ○エピソードを読む。	※配役を決めて，読み合わせると良い。 ※前に出て読み合わせると良い。	
（10分）	<考えましよう，出しましよう> ○設問①に記入し，話し合う。	○三つの約束（発言の平等，人の発言を肯定，秘密の保守），ただし，言いたくないことは話さなくても良い。（パス有り）	
（10分）	○設問②に記入し，話し合う。	○自分が子育てをしていた頃を思い出し，振り返ってみる。	
（30分）	○設問③に記入し，話し合う。 ・参考資料のグラフ見たり県民の皆さんの声を読んだりする。 ・子育てについて感じていること，子育てへの地域でできる支援はどんなことかなど，テーマを決めて話し合う。	○参考資料を見て，しつけや子育てに自信がない人が増えてきていることや，地域とのつながりと子育てへの不安や悩みの関係など話し合う。 ※「子育てに自信がない」と答えた人は，参加者が子育てをしていた頃に比べ，2倍近く増えていることに着目すると良い。 ○県民の皆さんの声も読み合う。 ○テーマは，全体で1つに絞っても良い。また，グループごとでテーマを決めて話し合っても良い。 ○付箋紙に考えたことを書き，それを模造紙に貼って出し合いながら話し合う。 ○付箋紙を同じ内容ごとに集める。その近くにどんなことを話したか，マジックでまとめて書く。 ※子育て支援者として「心がけたいこと3か条」を作っても良い。	
（15分）	○話し合ったことを紹介し，意見交換する。	○模造紙を見せながら紹介すると効果的である。 ○子育てを取りまく現状を理解し，支援の必要性に気付いてもらう。	
（15分）	<学習を振り返りましよう> ○ワークシートに記入する。 ○ファシリテーターの話	※「県民の皆さんの声」を読む。（「県民の皆さんの声」は，模範解答ではなく，色々な意見があるということを示すためのもの）	
（5分）	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
〈メモ〉			

<「再び子育て，そして親育て」期：『「いまどきの親は」なんて言わない』編-2>

対象（時間）：中高年などの子育て支援者（110分程度）

たちどまってみて… ～こんな場面で，あなたなら？～

【ねらい】子育て中の親子への関わりについて意見交換し，適切な支援のあり方について考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札，ワークシート，アンケート用紙，（必要に応じて，模造紙，付箋，フェルトペン（裏写りのしないもの，ホワイトボード）など）

時間	アクティビティの展開例	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	※スケジュールを板書しておく。 ・机は講義形式
： （5分）	○ファシリテーター（学習支援者） 自己紹介，主旨・ルール等説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は，予め了解を取る。（肖像権）	
： （10分）	アイスブレイク（雰囲気づくり） 「拍手でグループ」 ①拍手した回数的人数で固まる。 ②あふれた人にインタビューする。 ③数回繰り返した後，5～6人ずつのグループを作る。 ○グループ内で自己紹介をする。	○初対面の人同士の場合，自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 ○和やかな雰囲気づくりと，スムーズなグループづくりに配慮する。 →歌に合わせて歩きながら！ →例）名前や食べ物の好き嫌いなど。 →この間にワークシートを配る。	・机を撤去 ・グループ数に応じて，机を配置
： （5分）	○タイトル，ねらいを読む。 <エピソードを読みましよう> ○各自で黙読した後，音読する。	○三つの約束（発言の平等，人の発言を肯定，秘密の保守），ただし，言いたくないことは話さなくても良い。（パス有り） ○場の情景が思い浮かぶまで読み込む。 ○エピソードはファシリテーターが読んでも，参加者が読んでも良い。 ※読みながら「お母さんは何の材料を買いに来たのでしょうか」「さとし君の好きなキャラクターは何でしょうか」など参加者に質問しても良い。	
： （50分）	<考えましよう，出し合いましよう> ○設問①に記入し，話し合う。（10分） ○話し合ったことを，紹介する。（5分） ○設問②に記入し，話し合う。（10分） ○設問③に記入後，グループのランキング表を作る。（15分） ○グループのランキングを紹介する。（10分）	○エピソードについて，話し合うことを押さえる。 ○親や子供の気持ちに寄り添って考える。 →日頃の自分の行動と照らし合わせて，5つの行動をランキングしてみる。 ※多数決によらず，全ての意見を出し合い，聞き合って，グループとして順位付けをしていく。 ※模造紙に表を作ると良い。 ※ホワイトボードなどに表の見本を書いておくと，分かりやすい。	
： （25分）	<さらに考えましよう> ○日頃の生活の中で，気になった親子のエピソードについて記入し，グループ内で意見交換する。 ○話し合ったことを紹介する。	○日頃の自分の行動を振り返り，グループの話し合いを通して，どのような行動や対応ができるのかを考える。 ※個人的に対応できることに加え，地域で子育てを支援できることはどんなことかなど話し合えると良い。	
： （10分）	<学習を振り返りましよう> ○ワークシートへの記入 ○ファシリテーターの話		
： （5分）	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
〈メモ〉			

<「再び子育て，そして親育て」期：『いまどきの親は』なんて言わない』編－3>

対象（時間）：中高年などの子育て支援者（120分程度）

かかわってみて… ～地域の大人ができること～

【ねらい】子供の豊かな成長を促す場をつくるために，地域の大人として何ができるかを考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札，ワークシート，アンケート用紙，A3用紙，付箋紙，模造紙，フェルトペン（裏写りしないもの）

時間	アクティビティの展開例	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	※スケジュールを板書しておく。 ・机は講義形式
（5分）	○ファシリテーター（学習支援者）自己紹介，主旨・ルール等説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は，予め了解を取る。（肖像権）	
（15分）	アイスブレイク（雰囲気づくり） 「へびじゃんけん」 ①出会った人と握手して自己紹介 ②じゃんけんをして，負けた人は勝った人の後ろに付く。 ③二匹の長いへびになったら，先頭の人は自己紹介して，決勝じゃんけん ④先頭から番号をかけ，グループ分け ○グループ内で自己紹介をする。	○コミュニケーションに関わるゲームを通して，人間関係作りに大切なことを体験的に考える。 →相手を見つけ，「○月○日生まれの○○です。」と簡単に自己紹介し，じゃんけんをする。 →了解を取って，前の人の肩に手をかける。 →この間にワークシートを配る。	・机を撤去 ・グループ数に応じて，机を配置
（10分）	○タイトル，ねらいを読む。 <思い出しましょう> ○設問に記入し，話し合う。	○三つの約束（発言の平等，人の発言を肯定，秘密の保守），ただし，言いたくないことは話さなくても良い。（パス有り） ○地域に住んでいる子供への関わり方について考える前に，自分の子供の頃を振り返り，子供の時考えていたことや思いなどを思い出す。	
（7分）	<エピソードを読みましょう> ○各自で黙読する。 ○グループの中で配役を決めて音読する。	○場の情景が思い浮かぶまで読みこむ。 ○子供役の人に，音読後感想を聞くことも子供の気持ちを考えるために効果的。	
（65分）	<考えましょう，出し合いましょう> ○設問①に記入し，話し合う。（10分） ○設問②に記入し，話し合う。（10分） ○話し合ったことを紹介し，意見交換する。（10分） ○設問③に記入し，話し合う。（25分） ○話し合ったことを紹介し，意見交換する。（10分）	○子供の遊びや遊び場を挙げることで，子供に関する環境について考えるきっかけとする。 ○記入前にもう一度子供の言葉を読み，子供の気持ちを想像し，どのように答えるかを考える。 ○子供を取りまく環境に気付き，関わり方について考える。 ○資料を参考にして，どんなことができるか考える。（付箋紙に書いて出し合っても良い。） ○子供たちが求めていることはどんなことか，子供たちを健やかに育てていくために，どんなことができるか，地域の中で具体的にできることを考える。 ○どんなことができるか用紙にまとめる。 ○用紙は，発表後ホワイトボードなどに張り出し，みんなで見合うことができるようにする。	
（3分）	<地域で子育てを応援しましょう> ○地域における取組事例を見る。	※今後の活動の参考としていく。（時間が無い場合は，後ほど見てもらう。）	
（10分）	<学習を振り返りましょう> ○ワークシートに記入する。 ○ファシリテーターの話		
（5分）	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
〈メモ〉			

お父さんの子育てトーク！ ～「父親」の楽しみを持ち寄ろう～

【ねらい】父親として子育てにかかわることの楽しさを語り合い、自分なりにできることを考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙、模造紙、付箋、フェルトペン（裏写りのしないもの）

時間	アクティビティの展開	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に） ○グループ分け	○全員が名札をつける。（ニックネーム可） ○自分の好きな色紙片を取ってもらい、指定のグループに着席する。	※スケジュールを板書しておく。
： （5分）	○ファシリテーター（学習支援者） 自己紹介、主旨・ルール等説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。（肖像権）	・机は講義形式
： （10分）	アイスブレイク（雰囲気づくり） 「4つの選択」 ①4つの選択肢を参加者に伝える。 ②あらかじめ部屋の四隅にA, B, C, Dを提示しておき、あてはまる場所へ移動してもらう。 ③それぞれのグループに選んだ理由を教えてもらう。 ④数グループに分ける。 ○グループ内で自己紹介をする。	○初対面の人同士の場合、自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 ○選択肢の例 ・好きなスポーツ・好きな食べ物 ・好きなアイドル ・休みの日、子供と一緒に御飯を食べるとしたら、何を食べる。 ※「4つの選択」で分かれたグループをもとに作っても良い。 ※「自分にとって、子供とは」、「親としてどのような存在でありたいか」など、漢字一文字で表して紹介することを入れても良い。 →この間にワークシートを配付する。	・机を撤去 ・グループ数に応じて、机を配置
： （60分）	○タイトル、ねらいを読む。 <考えましょう、出し合いましょう> ○設問1に記入し、話し合う。（10分） ○設問2①に記入し、話し合う。（10分） ○話し合ったことを紹介し、意見交換する。（5分） ○設問2②に記入し、話し合う。（25分） ○話し合ったことを紹介し、意見交換する。（10分）	○子育てについて考える導入とする。 ○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守）、ただし、言いたくないことは話さなくてもよい。（パス有り） ○子供が生まれた頃のことを話題にして話すことで、話し合える雰囲気作りを行う。 ○子育てについてゆっくり振り返る時間としていく。 ○どんなことをしているか、気軽に楽しく情報交換を行う。 ○設問2②に記入し「悩み」や「疑問」を出し合った後、続いてアイデアを出し合う。設問2③は、話し合いで出たアイデアを記入する。 ○話題となったことを出し合う。	
： （30分）	<さらに考えましょう> ○設問に記入し、話し合う。（20分） ○話し合ったことを紹介し、意見交換する。（10分）	○工夫していることや大切にしていることについて考える。 ○これからの子育てについて、楽しみが持てるようにしていく。 ※設問2で話し合ったアイデアとつなげて考えると良い。	
： （10分）	<学習を振り返りましょう> ○ワークシートに記入する。 ○ファシリテーターの話	○参考資料や「県民の皆さんの声」を読む。（「県民の皆さんの声」は模範解答ではなく、色々な意見があるということを示すためのもの）	
： （5分）	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
〈メモ〉			

ケータイ！うちではどうする？！ ～考えてみて、わが家流のつきあい方～

【ねらい】子供の携帯電話利用実態について話し合い、どうすれば子供が携帯電話と上手に付き合うことができるかを考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙、（必要に応じて、模造紙、付箋紙、フェルトペン（裏写りのしないもの）など）

時間	アクティビティの展開	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	※スケジュールを板書しておく。 ・机は講義形式
（5分）	○ファシリテーター（学習支援者）自己紹介、主旨・ルール等説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。（肖像権）	
（10分）	アイスブレイク（雰囲気づくり） 「瞬間グループ分け」 ○テーマに関する質問をして、当てはまる場所に分かれ、グループを作る。 ○グループ内で自己紹介をする。	○初対面の人同士の場合、自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 ○質問の例 ・携帯電話の利用頻度が高いor低い ・子供にも携帯電話を「持たせている」、「持たせていない」、「考え中」である ・メールを打つのは速い ・メールを打つ時、絵文字を良く使う。 ・これまで使った携帯電話の台数 ・携帯電話の色 など →この間にワークシートを配付する。	・机を撤去 ・グループ数に応じて、机を配置
（30分）	○タイトル、ねらいを読む。 <エピソードを読んで考えましょう> ○まず、各自で黙読する。 ○配役を決めて音読する。（10分） ○設問①に記入し、話し合う。（10分） ○設問②に記入し、話し合う。（10分）	○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守）、ただし、言いたくないことは話さなくても良い。（パス有り） ※エピソードを読むのに合わせて、ナレーター、親役、子役になって、様子を表現するのも良い。 ○エピソードをもとに、子供の様子を見直してみる。（携帯電話との関わりを中心に）	
（15分）	<ケータイの利用実態について考えましょう> ○設問に記入に記入し、話し合う。	○参考資料1も見て、子供の携帯電話の利用実態について情報交換する。	
（35分）	<家庭内での、約束やルールについて考えましょう> ○設問①、②に記入し、話し合う。 ○話し合ったことを紹介する。	○現在携帯電話を持たせている人は、どんな約束やルールを作っているか、作る時、気を付けたことなど話し合う。また、持たせていない人は、仮にこれから持たせることになると、どのようにするかを考えてみる。 ○家族で携帯電話の利用に係る約束やルールを考えることを通じて、家族のコミュニケーションを豊かにしていくことの大切さに気付いていく。 ○付箋紙に書き（約束・ルールと気を付けることの色を分ける。）、模造紙に貼って話し合う。 ○情報交換が充分できるよう、時間を確保する。	
（5分）	<「わが家のケータイルール」を作ってみましょう> ○ルール作りをする。	○話し合ったことを参考に作ってみる。続きは家族の話題にして、子供と相談しながら完成させる。	
（15分）	<学習を振り返りましょう> ○ワークシートへ記入する。 ○ファシリテーターの話	※参考資料1、2を見て、話し合ったことを思い出し、学習を振り返る。	
（5分）	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
〈メモ〉			

対象（時間）：子育て期の親、働く人など（100分程度）

向き合ってみて… ～「仕事」と「子育て」の調和のために～

【ねらい】仕事と生活(子育て)の調和を図り、子供や家族と向き合うことの大切さについて考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙、模造紙、付箋紙、フェルトペン（裏写りのしないもの）

時間	アクティビティの展開例	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	※スケジュールを 板書しておく。 ・机は講義形式
：	○ファシリテーター（学習支援者） 自己紹介、主旨・ルールなど説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。（肖像権）	・グループ数に応 じて、机を配置
（5分）	アイスブレイク（雰囲気づくり） 「私の心の色は？」	○初対面の人同士の場合、自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 ※「仕事」と「仕事以外の生活」をイメージする色とその色を選んだ理由を紹介しあう。 →適宜、グループ分け →この間に、ワークシートを配る。	
（15分）	○タイトル、ねらいを読む。 <エピソードを読みましよう> ○まず各自で黙読する。 ○次に、参加者で配役を決めて読みあう。	○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守）、ただし、言いたくないことは話さなくても良い。（パス有り） ▲「親の力」の意味合いや、社会全体で子供を育てることの大切さについて、丁寧に説明する。	▲独身、子供がいない、子供が独立、子育て真っ最中など、様々な方が参加されている場合の留意点
（5分）	<考えましよう> ○設問に記入し、話し合う。（15分） ○話し合ったことを紹介する。（5分）	○エピソードに沿って話し合う。 ※①～③で焦点を絞って話し合っても良い。 ※③の間いでは、周りへの協力依頼だけでなく、ともに子育てするパートナーへ「自らが」協力できることについても合わせて考える。 ▲第三者の立場からの支援・協力も考える。	
（20分）	<考えましよう、出し合いましよう> ○「働きながら子育てするうえで困っていること」や、「生活のなかでの工夫」を考え、話し合う。（15分） ○話し合ったことを紹介する。（10分）	○「悩みや不安」「生活のなかの工夫」を付箋紙に書き、出し合いながら話し合う。 ▲①の問いについて、同僚等、周りの「子育て中の人」を見て「気がついたこと」「たいへんだなと思うこと」等についても合わせて考える。 ※付箋紙は、①と②の項目で使う色を変える。 ※付箋紙には、1枚に1つ考えたことを書く。 ※同じような意見をまとめる。 ○限られた時間の中で、子供や家族と向き合うための工夫について考える。 ○子育て中の「親自身」ができることだけでなく、「周りの協力」についても考える。	
（25分）	<さらに考えましよう>	○仕事と子育ての時間的なバランスや、どちらに重点をおくかの割合でなく、生活を豊かにしていくためにどんなことができるかを考える。 ○働き方の多様性、柔軟性を認め合う視点を持つ。 ▲第三者の立場からの支援・協力も考える。	
（15分）	<学習を振り返りましよう> ○ワークシートに記入する。 ○ファシリテーターの話		
（10分）	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
（5分）	〈メモ〉		

＜赤ちゃんや小さい子供のいる家庭での読み聞かせ支援のツール＞

対象（時間）：まもなく親になる人，0～3歳児の親子（50分程度）

おひざにだっこでおはなししましょう ～絵本をひらいてみませんか？～

【ねらい】読み聞かせの体験等を通して、子供に対する読み聞かせの大切さを感じ、自分の子育てに取り入れるきっかけとする。

【準備物】主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙、筆記用具、絵本（講座場所に絵本がない場合は、図書館で借りるなどして準備する。絵本がある人は持ってきてもらっても良い。）

時間	アクティビティの展開例	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可） ○親子で安全に参加できる「場」づくりに留意する。（ジュータン敷の部屋などを用意。）	※スケジュールを板書しておく。 ※地域の図書館司書や読み聞かせボランティア等と協働して講座を実施してもよい。
： （5分）	○ファシリテーター（学習支援者）自己紹介、主旨・ルールなど説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。（肖像権） ○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守）、ただし、言いたくないことは話さなくても良い。（パス有り）	
： （10分）	アイスブレイク（雰囲気づくり） ☆親子で手遊び ☆いろいろなわらべうた	○初対面の人同士の場合、自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 ○リズムカルに歌い、和やかな雰囲気をつくる。	※安全面に十分配慮する。
： （5分）	○タイトル、ねらいを読む。 ○赤ちゃん絵本の出会いを紹介する。	○絵本の読み聞かせ体験の導入として、「こんなことがあります。一緒にやってみましょう」と声をかける。	
： （15分）	＜やってみましょう＞ ○親子でファシリテーターの読み聞かせを聞く。 ○子供へ絵本の読み聞かせをしてみる。（可能なら） （10分） ○感想を交流し合う。 （5分）	○おひざにだっこして絵本の読み聞かせを親子一緒に楽しむ。 ※我が子や周りの子供の表情や様子を見守るよう伝える。（子供のまなざしやしぐさに関心を示すことが成長につながる。） ※読み聞かせに対する反応はそれぞれであることをふまえて「それでいいですよ」と声をかけて安心感を与える。 ※《絵本の読み方が上手になることが目的ではなく、読み聞かせが初めてうまくいぬのと同じように子育ては思い通りいかないことの連続であり、結局は子供を主人公に親は見守っていく存在であるということ》を伝える。 ▲一冊の本を声に出して回し読みをする。	▲まもなく親になる人が対象である場合の留意点
： （5分）	＜赤ちゃんが大好きな絵本の紹介＞ ○絵本を紹介する。 ＜参考資料等の紹介＞ ○必要に応じて参考資料等を紹介する。	※おすすめの本を用意しておき紹介してもよい。（布絵本やしかけ絵本等も用意しておき紹介する。） ※紹介は一例とし、好きで一緒に読んでみたい本を選ぶように伝える。 ※リーフレット等を準備、配布し、紹介してもよい。 ○身近にある物事（印刷物、季節など）をことばにして赤ちゃんに語りかけることで、コミュニケーションや「ことば」は育まれることを紹介する。 ○赤ちゃんとのふれあいを感じる方法としてうたをきかせることも効果的であることを紹介する。 ○図書館等、絵本と出会える場所を紹介する。 ○講座の目的や参加者の様子に合わせて必要な箇所を読んでいく。	※『赤ちゃん向け絵本ガイド』（広島県読書推進運動協議会） ※『絵本で子育てを楽しく』（文研学舎）
： （5分）	＜学習を振り返りましょう＞ ○ワークシートに記入する。 ○ファシリテーターの話	※参加者一人一人に感想を聞いてみてもよい。 ※絵本の読み聞かせは、義務的に、仕方なしにやるものではなく、親子で絵本を通じて一緒に遊んだり、リラックスする過ごし方の一つとして行ってほしいことを伝える。	※ワークシートに無理に記入してもらわなくてもよい。
： （5分）	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散 ※片付け、アンケート記入が難しい場合は、無理に行ってもらわなくてもよい。	・現状復帰
〈メモ〉			

<赤ちゃんや小さい子供のいる家庭での読み聞かせ支援ツール>

対象（時間）：まもなく親になる人，0～3歳児の親（60分程度）

おひざにだっこでおはなししましょう ～読み聞かせ，どうしてる？～

【ねらい】読み聞かせの悩みや工夫などの交流を通して，自分の読み聞かせを振り返るとともに，それぞれの実情に応じて，これからの読み聞かせに活かそうとする。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札，ワークシート，アンケート用紙，おすすめの絵本（数冊）

時間	アクティビティの展開例	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	
（5分）	○ファシリテーター（学習支援者） 自己紹介，主旨・ルールなど説明	○写真を撮る場合は，予め了解を取る。（※録音） ※地域の図書館司書や読み聞かせボランティア等と協働して講座を実施してもよい。 ※おすすめ絵本を展示して，雰囲気作りを行うとよい。（親子が自由に絵本に触れられるようにしておく。）	
（10分）	アイスブレイク（雰囲気づくり） 例「お手玉遊び」 ①2人がペアになり向き合う。1人はお手玉を持ち，もう1人は手でお皿を作る。 ②「ももたろさん」の歌に合わせて，4拍目で（「ももたろさん」で4拍）で，きび団子（お手玉）を相手のお皿（手の平）に載せる。それを繰り返す。 慣れてきたら少しずつスピードをあげてやってみる。 例「おすすめ絵本の紹介」 例「思い出の絵本・おはなし」	○初対面の人同士の場合，自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 ※絵本とうたをつなげられるような遊びや，ファシリテーター自身のおすすめ絵本等の紹介，思い出の絵本，おはなし等の紹介をしてもよい。 ※（「思い出しましょう」に記入し，）自己紹介しながら，幼かった頃好きだった絵本等を話し合ってもよい。 ※具体的に思い出せない場合は，幼い頃の思い出（好きだったものや遊び等）でもよい。	・参加者が，幼い頃を思い出せるような，なつかしい絵本，読み継がれているものなどを紹介するとよい。
（5分）	○タイトル，ねらいを読む。 <エピソードを読みましよう> ○エピソードを読む。	○三つの約束（発言の平等，人の発言を肯定，秘密の保守），ただし，言いたくないことは話さなくても良い。（パス有り）	
（5分）	<考えましよう> ○設問に記入し，話し合う。（5分）	○エピソードに沿って話し合う。 ※自身の幼少期を振り返って話をしてもよい。	
（25分）	<考えましよう，出し合いましよう> ○絵本の読み聞かせで「困っていること」や「聞いてみたいこと」を考え，話し合う。（5分） ○絵本の読み聞かせについて，グループごとに自由にテーマを決めて話し合う。（10分） ○話し合ったことを紹介する。（10分）	※話し合いながら，記入してもよい。 ※グループで自由に話し合っテーマを決めてもいいし，あらかじめテーマを決めておいてもよい。 ※「いろいろな意見を出し合いましよう」と声をかけ，何でも言える雰囲気をつくる。 ○「県民の皆さんの声」を紹介する。 ▲自身の体験を踏まえ，未来を想像しながら，話し合う。	▲まもなく親になる（妊娠期の）人が対象の場合の留意点
（5分）	<学習を振り返りましよう> ○ワークシートに記入する。 ○ファシリテーターの話「読み聞かせの効果」を紹介する。	※図書館等，絵本と出会う場所を紹介してもよい。 ※子育ては，絵本の読み聞かせが初めからうまくいかないのと同じように思い通りにならないことをふまえ，「それでいいんですよ」等，肯定的な声かけをする。 ※読み聞かせQ&Aやおすすめ絵本の紹介等の資料を準備して，配布してもよい。 参考：『赤ちゃん向け絵本ガイド』（広島県読書推進運動協議会），『絵本で子育てを楽しく』（文部科学省）	※ワークシートに無理に記入してもらわなくてもよい。
（5分）	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散 ※片付け，アンケート記入が難しい場合は，無理に行ってもらわなくてもよい。	・現状復帰
〈メモ〉			

地域ぐるみで子育て！～親の立場で考えてみよう～

【ねらい】 子育てマップを参考にして、子供の頃を思い出し、家族だけでなくいろいろな人々に支えられて成長してきたことに気付く。また、子育ては親だけで行うものではなく、地域には助けになる施設や人の存在があることに気付くとともに、自分が大人になったとき、親あるいは地域社会の一員として子供とどう関わり、子供をどう育てていくかを考える。

【準備物】 学習者：筆記用具

主催者：名札、画用紙、付箋紙、ワークシート、フェルトペン（裏写りしないもの）、アンケート用紙

時間	アクティビティの展開例	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	※学校側挨拶 ※スケジュールを板書しておく。 ※机は4～5人程度の小グループ ※既にグループがあるときはそれを活用する。 ※参加者の家庭の状況等によっては表現に留意する。
： （5分）	○ファシリテーター（学習支援者）自己紹介、主旨・ルールなど説明 ○アイスブレイク（雰囲気づくり）参加者同士が子供の頃の愛称を紹介し合うなどして、当時の親や地域の大人との関わりを思い出してもらう。	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○赤ちゃんの写真を見せるなどする。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。 ○必要があるときは、アイスブレイクにもう少し時間をかけてもよい。 ○ワークシートの各設問について考えてもらう際に、付箋紙に書き出して、書いたことを画用紙などに貼りながら話してもらう方法もある。	
： （15分）	○タイトル、ねらいを読む。 ＜子育てマップ＞ ＜考えましょう＞ ○まず各自でマップを見る。 ○ファシリテーターの話。（3分） ○設問①について話し合う。（記入、話し合い：4分） ○設問②について話し合う。（記入、話し合い：4分） ○話し合ったことを紹介する。（4分）	○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守）、ただし、言いたくないことは話さなくてもよい（パス有り）。 ○設問②で、参加者に子供の頃に親を心配させた話をしてもらう前に、ファシリテーターからいくつか具体の事例を説明してもらい、参加者が話しやすいようにする。その説明の中で、 <u>地図中に子供になじみのない施設があるときは、参考資料などを参考に補足説明する（地域により施設の名称が異なる場合なども補足説明する。例：役場→市役所、公民館→コミュニティセンター）。</u> ○設問①と②を通して、子育ては楽しいものであることに気付いてもらう。その一方で、子育てには様々な苦勞もあるが、子育ては親だけで行うものではなく、地域には助けになる施設や人の存在があることに気付いてもらう。	※適宜参加者に声を掛けて安心感を与える。 ※テストではないので、自由に書いたり話したりしてもらって構わないことを伝える。 ※ワークシートには簡条書きで記入してもらう。（以下の設問も同じ） ※グループで話し合ってもらおう。（以下の設問も同じ） ※2つ位のグループに、話し合ったことを発表してもらい、全体で交流する。（以下の設問も同じ）
： （15分）	＜考えましょう、出しましょう＞ ○ファシリテーターの話。（4分） ○設問③について記入し、話し合う。（記入、話し合い：6分） ○話し合ったことを紹介する。（5分）	○設問③の話し合いをしてもらう前に、ファシリテーターから、子供の世話をしたり、一緒に遊んだりしてあげるなど子育ての具体的な話をもらい、参加者が話しやすいようにする。 ○子供にどのように関わっていきたいか具体的に想像してみるように声を掛ける。	※対象者が <u>中学・高校生であることを考慮し、適宜、参考資料の内容も含めて分かりやすく説明する。</u>
： （15分）	＜学習を振り返りましょう＞ ○ワークシートに記入し、話し合う。（記入、話し合い：5分） ○ファシリテーターの話。（3分） ○話し合ったことを紹介する。（5分） ○アンケートに記入する。（2分）	○これらのことを考えることが、将来大人になった自分自身にとって大切なことであること、将来の自分につながっていることに気付いてもらう。 ○最後にファシリテーターから押さえて、これからの子育てには、親だけでなく社会全体でしっかり関わっていくことが求められていることを伝える。	
＜メモ＞			

あなたならどうする，どう考える？～親として，地域の一員として～

【ねらい】 参加者が身近に感じられるエピソードをもとに，そのような場面に出会ったらどう思うか，当事者だったらどうするかについて考える。そして，将来自分が大人になったとき，どのように子育てや子育て中の親に関わっていききたいかを話し合い，親あるいは地域社会の一員として，子供や親と関わっていくことの大切さについて考える。

【準備物】 参加者：筆記用具

主催者：名札，ワークシート，模造紙，付箋紙（2色），フェルトペン（裏写りしないもの），アンケート用紙

時間	アクティビティの展開例	留意点	備考
：	※名札付け	○全員が名札を付ける。（学校以外の場など必要時）	※学校側挨拶 ※スケジュールを板書しておく。 ※机は4～5人程度の小グループ ※既にグループがあるときはそれを活用する。 ※参加者の家庭の状況等によっては表現に留意する。
： （5分）	○ファシリテーター（学習支援者） 自己紹介，主旨・ルールなど説明 ○アイスブレイク（雰囲気づくり） 例えば，じゃんけんゲームや手遊びなどの軽いゲームやクイズをするなどして，ファシリテーターと参加者の和やかな雰囲気作りに努める	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は，予め了解を得る。 ○（学校で行う場合など，参加者が初対面でなかったりグループ作成の必要がなかったりする場合）アイスブレイクは，参加者とファシリテーターの関係づくりやファシリテーターの思いやスタンスを伝えることを意識して行う。	
： （24分）	○タイトル，ねらいを読む。 ＜エピソードを読みましよう＞ ○エピソードを音読する。 ＜考えましよう＞ ○設問①について話し合う。 （記入，話し合い：4分） ○話し合ったことを紹介する。（2分） ○設問②について話し合う。 （記入，話し合い：4分） ○話し合ったことを紹介する。（2分） ○設問③について記入し，話し合う。 （記入，話し合い：5分） ○話し合ったことを紹介する。（3分）	○三つの約束（発言の平等，人の発言を肯定，秘密の保守）を知らせる。ただし，言いたくないことは話さなくてもよい。 ○ファシリテーターから経験談などを話したり，参加者の経験を聞いたり，この後どうなったかを想像させるような問い掛けをすることで，参加者が考えを出しやすいようにする。 ○フードコートのイラストの後ろ姿の学生たちが「参加者＝あなた」であることを伝え，イメージを膨らませてもらう。 設問①について，「①子供について」「②おじいさんについて」「③親（たち）について」どう思うかという視点を伝え，考える視点を限定することで考えやすくする。（※中学1年生では①のみ，学年が進めば②，③についても考えるというようにしても良い。） ○設問②について理由も考えることで，より主体的に捉えることができるようにする。 ○設問③の「この親」について「ぶつかった子供の親」について考えてもらい，時間に余裕があれば「まわりの親」にも広げて考えるようにする。また「子供にどのように声を掛けるか」「おじいさんに対してどのような態度をとるか」など，必要に応じて説明を加える。	※適宜参加者に声を掛けて安心感を与える。 ※テストではないので，自由に書いたり話したりしてもらって構わないことを伝える。（学校で行う場合，ワークシートを回収するかどうかは事前に打ち合わせておく） ※ワークシートには箇条書きで記入してもらう。（以下の設問も同じ） ※グループで話し合ってもらおう。（以下の設問も同じ） ※2つ位のグループに，話し合ったことを発表してもらい，全体で交流する。（以下の設問も同じ） ※必ずしも全ての設問に発表時間を設けなくても良い。

時間	アクティビティの展開例	留意点	備考
: (15分)	<p><グラフを見てみよう> ○ファシリテーターがグラフや吹き出しのセリフなどを紹介し説明する。</p> <p><考えましょう, 出し合ひましょう> ○設問④について記入し, 話し合う。(記入, 話し合い: 8分) ○話し合ったことを紹介する。(5分)</p>	<p>○子育ては, 楽しく幸せを感じられるものである反面, 多くの人不安も感じていること, また, 地域住民も子育て支援の必要性を感じていることなどについて資料と共にファシリテーターの話で伝える。*ワークシートの吹き出し部分を読んで伝えると有効。</p> <p>○設問④について, ラベルワークの方法が効果的。その際, 例えば親→桃色, 地域の一員→青色などと色分けすることで, 視点を明確にして考えることができるようにする。</p> <p>○親として「どんな子育てをしたいか」「どのように子供に関わっていききたいか」, 地域の一員として「将来, 大人になったときにできそうなこと」「地域社会として必要なこと」などについて考えるように声掛けをする。*「地域の一員」というイメージがわきにくいようであれば, 「地域のおじさん, おばさん」などと言い換えるのも良い。</p> <p>○子育ては, 親だけで行うものではなく, 地域全体で行っていくものであること, また自らもその一員になっていくということに気付いてもらう。</p>	
: (6分)	<p><学習を振り返りましょう> ○ワークシートに記入する。(2分) ○ファシリテーターの話。(3分) ○アンケートに記入する。(1分)</p>	<p>○これからの子育てには, 親と地域社会全体で関わっていくことが求められていることを伝える。「『親プロ』ってなに?」のコーナーを紹介し, この取組も地域住民による親への支援であることを伝え, 振り返りにつなげるようにする。</p>	*学校側挨拶
<メモ>			

＜親子コミュニケーション応援編＞

対象(時間):概ね2,3歳～6歳児の親 (50分程度)

「ちゃんとしてね!」で伝わってる?

【ねらい】曖昧な表現では子供に伝わらないマンガを通して、子供の気持ちに共感した具体的な言葉かけや対応について考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、模造紙、付箋紙、フェルトペン(裏写りのしないもの)、アンケート用紙
アイスブレイク用の用紙

時間	アクティビティの展開例	留意点	備考
：	○名札付け(来た順に)	○全員が名札をつける。(ニックネーム可)	
： (3分)	○ファシリテーター(学習支援者)自己紹介、主旨・ルールなど説明。	○和やかな雰囲気づくりを心がける。 ○写真を撮る場合は、前もって許可を得る。 ○「親子コミ」三つの特長(親等の悩みに対応、子供の気持ちを理解し自己を振り返る、具体的な子供との接し方についての情報提供)をファシリテーターが理解した上で、「子供の気持ちに共感した接し方、コミュニケーションの方法を、具体的に考えてみましょう」などと参加者に呼びかけ進める。	※スケジュールを 板書しておく。 ※机は4～5人程 度の小グループ
： (5分)	アイスブレイク(雰囲気づくり) 「ちゃんと描いてね!」 ①ファシリテーターの指示で絵を描く。 ②ペアになり、絵を見せ合う。 ③描画した紙を見せて、「ちゃんと」では伝わらないことを話す。(絵の描かせ方を学ぶねらいではないことを押さえる。)	○自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 ○まず「指示するとおりにちゃんと絵を描いてくださいね」と伝え、以降の指示は簡単なものにする。「月が夜空に出ています。星もあります。下の方に窓のついた家があります。」など。 ○「ちゃんと」という言葉の曖昧さを、他の同様な言葉(「しっかり」、「いい子」等)とともに説明する。	
： (10分)	○タイトル、ねらいを読む。 ＜マンガを読んで考えましょう＞ ○マンガ上段を読む。 ○マンガ下段を読んで考える。 ○設問①②について記入し、話し合う。 ※設問②では吹き出しのセリフも考える。 ※口頭で考えを交流し合う方法もある。 ※時間に余裕がある場合には出されたエピソードを親役、子役になってロールプレイすることで、好ましい関わり気づく方法もある。	○三つの約束+1(発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守とパス有)を知らせる。 ○上段では、曖昧な表現のために、親の思いが子供に十分に伝わっていなかったことを押さえる。 ○下段は、4コマ目で親子共に笑顔であることを押さえ、考えるようにする。 ※具体的な言葉かけや対応についてだけでなく、子供の気持ちや親の気持ちについても考えられるよう促す。 ※ファシリテーターがいくつかの意見を伝えるなどして全体交流とする方法もある。 ※ロールプレイをした場合は、その時の親子の気持ちを想像することができるよう声掛けをする。	※ワークシートは 回収しないこと、 正解があるわけでは ないので、自由に書 いたり、話したりし て構わないことを 伝える。

<p>： (22分)</p>	<p><考えましょう、出し合ひましょう> ○設問③について記入し、話し合う。 ※食事、片付け、遊び、睡眠など好きなテーマについて、あるいはファシリテーターが指定したテーマについて記入する。 ○話し合ったことを紹介する。</p>	<p>○設問③について、ラベルワークで行うことが効果的。 ※予め模造紙に罫線や項目等を記入しておく、時間短縮の工夫をする方法もある。 ※時間がない場合には、項目を一つに絞って、話しても良い。 ※「付箋紙1枚につき、1つ書く」「簡単で良い」などを伝える。 ○うまくいったこと、うまくいかなかったことなど、同じような経験をしたことがないか振り返り、その時の子供の気持ちも想像する。 ○子供の問題を「性格」でなく、「行動」に焦点を当てて捉えることの大切さに触れる。 ※子供への接し方や、しつけについての悩みや疑問、 ヒントの交流につなげて良い。</p>	<p>※話し合うことで安心感が生まれることを分かってもらう。</p>
<p>： (5分)</p>	<p><ファシリテーターからの説明> ○参考資料1のグラフ、参考資料2「親子のコミュニケーションサイクル」の紹介 ○参考資料3「親子のコミュニケーションに生かしてみよう」の説明 ※ニコニコサイクルにつながるコツ、ポイントとして押さえても良い。</p>	<p>○グラフから子育てに悩みを持つ人が少ないことを押さえる。 ○資料等を活用し、必要に応じて次の点を伝える。 ・あいまいな表現ではなく、「具体的に」してほしい行動を「動詞」で伝える。 ・何かしながらではなく子供と目線を合わせて話をする。 ・行動の過程をほめ、随時言葉かけをし、少しでもできたらほめる。(人はうれしいときに脳の中に心地良さを感じる物質が出てやる気になる。) ※イライラサイクルを否定するのではなく、日頃の子供への接し方を見つめ直す機会とし、イライラな関わりが少なくできると良いことを伝える。</p>	<p>※図(サイクル)を見せながら説明する。</p>
<p>： (5分)</p>	<p><学習を振り返りましょう> ○ワークシートに記入する。 ○気づきの共有</p>	<p>○すぐにはうまくいかないかも知れないが、できることから試してみる大切さを伝える。 ※参加者一人一人に感想を聞いても良い。 ※時間がない場合は、目を閉じ、自分自身で振り返る方法もある。 ※ファシリテーターからの感想があっても良い。</p>	<p>※ワークシートに無理に記入しなくても良いが、省略はしない。</p>
<p>：</p>	<p>○終了・片付け ○アンケート記入</p>	<p>○参加者全員で行う。 ○アンケート記入者から流れ解散</p>	<p>※現状復帰</p>
<p><メモ></p>			

ほめて“楽”に子育て～悩むの中止で注視しよう～

【ねらい】魔法の虫メガネで子供を見るマンガを通して、子供の気持ちに共感し子供の良いところを見つけてほめることの大切さについて考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、模造紙、付箋紙、フェルトペン（裏写りのしないもの）、アンケート用紙

時間	アクティビティの展開例	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	
： （3分）	○ファシリテーター（学習支援者） 自己紹介、主旨・ルールなど説明。	○和やかな雰囲気づくりを心がける。 ○写真を撮る場合は、前もって許可を得る。 ○「親子コミ」三つの特長（親等の悩みに対応、子供の気持ちを理解し自己を振り返る、具体的な子供との接し方についての情報提供）をファシリテーターが理解した上で、「子供の気持ちに共感した接し方、コミュニケーションの方法を、具体的にみんなで学びましょう」などと参加者に呼びかけ進める。	※スケジュールを 板書しておく。 ※机は4～5人程 度の小グループ
： （5分）	○アイスブレイク（雰囲気づくり） 「テーマに関する自己紹介」 ①名前 ②子供の数・年齢 ③（参加者自身が）家族に言われて うれしい言葉 ※時間に余裕があれば「他己紹介」： 各自、長所と短所を紙に書く →紙を二人組で交換する →相手の短所を長所にかえてグル ープの人に紹介する という流れで進めることもできる。	○自由に意見を出し合うためのウォーミングア ップとする。 ○自己紹介の後で「(家族に言われてうれしい言 葉を挙げ) △△など言われたり、ほめられたりし たらうれしいですね。今日はそんなエピソード から考えていきましょう」などと教材の内容に入 っていくと良い。 ※△△の例…「いつもありがとう」「おいしかった よ」等	
： （10分）	○タイトル、ねらいを読む。 ＜マンガを読んで考えましょう＞ ○マンガ上段を読む。 ○マンガ下段を読んで考える。 ○設問①②について記入し、話し合 う。 ※口頭で考えを交流し合う方法も ある。 ※時間に余裕がある場合には、ほめ る場面を親役、子役になってロール プレイすることで、好ましい関わり に気づく方法もある。	○三つの約束+1（発言の平等、人の発言を肯定、 秘密の保守とパス有）を知らせる。 ○イラスト、セリフ、猫の言葉などをファシリテ ーターの言葉で丁寧に伝える。 ○上段では、我が子を友達や一般的な基準と比べ て考えていた親が、猫の言葉で考え方を改めている 流れを押さえる。 ○下段では、4コマ目で親子共に笑顔であることを 押さえ、考えるようにする。 ※「流しに出すことまではできていなくても、 子供がカバンからお弁当箱を出せたことを認め る」など、たとえ完璧ではなくても、子供 の小さな良いところを見つけてほめている親 に注目する。 ※子供に伝えたいことがある時は、まずほめ て、次に言いたいことを伝え、最後にまたほ める・励ますという「サンドイッチ注意法」 も効果的。 ※具体的な言葉かけや対応についてだけでな く、子供の気持ちや親の気持ちについても考 えるよう促す。 ※ファシリテーターがいくつかの意見を伝え るなどして全体交流とする方法もある。 ※ロールプレイをした場合は、その時の親子 の気持ちを想像し、ほめ、ほめられることで	※ワークシートは 回収しないこ と、正解がある わけではないの で、自由に書い たり話したりし て構わないこと を伝える。

		親子共にあたたかな気持ちになることを押さえる。	
： (22分)	<p><考えましょう、出し合ひましょう> ○設問③について記入し、話し合う。 ※家庭内、近所、外出先、園所などの場面から思い出して記入する。</p> <p>○話し合ったことを紹介する。</p>	<p>○設問③について、ラベルワークで行うことが効果的。 ※予め模造紙に罫線や項目等を記入しておき、時間短縮の工夫をする方法もある。 ※時間がない場合には、項目を一つに絞って、話しても良い。 ※「付箋紙1枚につき、1つ書く」「簡単で良い」などを伝える。 ○例を参考に、普段は見逃しているような子供の良いところにも目を向けて考えることができるようにする。思いつかない様子の時は、ファシリテーターが他にも例を挙げて参加者のイメージがわくようにする。 ※子供への接し方やしつけについての悩みや疑問、ヒントの交流につなげて良い。 ○子供の問題を「性格」ではなく「行動」に焦点を当てて捉えることの大切さに触れる。</p>	※話し合うことで安心感が生まれることを分かってもらう。
： (5分)	<p><ファシリテーターからの説明> ○参考資料1のグラフ、参考資料2「親子のコミュニケーションサイクル」の紹介 ○参考資料3「親子のコミュニケーションに生かしてみよう」の説明 ※ニコニコサイクルにつながるコツ、ポイントとして押さえても良い。</p>	<p>○グラフから「ほめ方・叱り方が難しい」という人が3割以上いるなど、子育てに悩みを持つ人が少なくないことを押さえる。 ○資料等を活用し、必要に応じて次の点を伝える。 ・何かしながらではなく子供と目線を合わせて話をする。 ・行動の過程をほめ、随時言葉かけをし、少しでもできたらほめる。(人はうれしいときに脳の中に心地良さを感じる物質が出て、やる気になる。) ※イライラサイクルを否定するのではなく、日頃の子供への接し方を見つめ直す機会とし、イライラな関わりが少なくできると良いことを伝える。</p>	※図(サイクル)を見せながら説明する。
： (5分)	<p><学習を振り返りましょう> ○ワークシートに記入する。 ○気付きの共有</p>	<p>○すぐにはうまくいかないかも知れないが、できることから試してみることの大切さを伝える。 ※参加者一人一人に感想を聞いても良い。 ※時間がない場合は、目を閉じ、自分自身で振り返る方法もある。 ※ファシリテーターからの感想があっても良い。</p>	※ワークシートに無理に記入しなくても良いが、省略はしない。
：	<p>○終了・片付け ○アンケート記入</p>	<p>○参加者全員で行う。 ○アンケート記入者から流れ解散</p>	※現状復帰
〈メモ〉			

待つ門には福がくる！？

【ねらい】支度する子供を父親が根気強く待つマンガを通して、子供の主体性を尊重し自分でできるよう待つことの大切さについて考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、模造紙、付箋紙、フェルトペン(裏写りのしないもの)、アンケート用紙

時間	アクティビティの展開例	留意点	備考
：	○名札付け(来た順に)	○全員が名札をつける。(ニックネーム可)	
： (3分)	○ファシリテーター(学習支援者)自己紹介、主旨・ルールなど説明。	○和やかな雰囲気づくりを心がける。 ○写真を撮る時は、前もって許可を得る。 ○「親子コミ」三つの特長(親等の悩みに対応、子供の気持ちを理解し自己を振り返る、子供との接し方の具体を情報提供)をファシリテーターが理解した上で、「子供の気持ちに共感した接し方、コミュニケーションの方法を、具体的にみんなで学びましょう」などと参加者に呼びかけを進める。	※スケジュールを 板書しておく。 ※机は4～5人程 度の小グループ
： (5分)	○アイスブレイク(雰囲気づくり) 「テーマに関する自己紹介」 ①名前 ②子供の数・年齢 ③(子供の)朝の身支度にかかる時間 ※時間に余裕があれば、「ラインナップ」： 身支度にかかる時間でチェーン作り →グループ分け →自己紹介 という流れで進めることもできる。	○自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 ○自己紹介の後で、ファシリテーターから「身支度の時間も様々ですね。今日は身仕度に関わるエピソードから考えていきましょう」などと教材の内容に入っていくと良い。	
： (10分)	○タイトル、ねらいを読む。 ＜マンガを読んで考えましょう＞ ○マンガ上段を読む。 ○マンガ下段を読んで考える。 ○設問①②について記入し、話し合う。 ※口頭で考えを交流し合う方法もある。 ※時間に余裕がある場合には、待つことができた場面を親役、子役になってロールプレイすることで、好ましい関わりに気づく方法もある。	○三つの約束+1(発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守とパス有)を知らせる。 ○イラスト、セリフ、猫の言葉などをファシリテーターの言葉で丁寧に伝える。 ○上段では、子供が自分でするのを待てない父親がイライラして、子供のやることを取ってしまう流れを押さえる。 ○下段は、3コマ目の時計の時間、4コマ目の親子共に笑顔であることを押さえ、考えるようにする。 ※具体的な言葉かけや対応についてだけでなく、子供の気持ちや親の気持ちについても考えられるよう促す。 ※ロールプレイをした場合は、その時の親子の気持ちを想像することができるよう声掛けをする。 ※ファシリテーターがいくつかの意見を伝えるなどして全体交流とする方法もある。	※ワークシートは回収しないこと、正解があるわけではないので、自由に書いたり、話したりして構わないことを伝える。

<p>： (22分)</p>	<p><考えましょう、出し合いましょう> ○設問③について記入し、話し合う。 ※着替え、したく、片付けなどの場面について、子供を待つことができたとき、待てなかったときなど、同じような経験をしたことがないかを振り返り、その際の子供の気持ちも想像して記入する。</p> <p>○話し合ったことを紹介する。</p>	<p>○設問③について、ラベルワークで行うことが効果的。 ※予め模造紙に罫線や項目等を記入しておき、時間短縮の工夫をする方法もある。 ※時間がない場合には、項目を一つに絞って、話しても良い。 ※「付箋紙1枚につき、1つ書く」「簡単で良い」などを伝える。 ○例を参考に、着替え、したく、片付けの他にも、遊び、食事、トイレ、お風呂、睡眠などについても考えてもらうように声掛けをすることで考えてもらいやすくする。 ※進め方の例として次の方法もある。 ・待つことができたとき、待てなかったときを分担して考える。 ・『したく』『片付け』について思い出してください」などのように、項目をしぼって考える。 ※子供への接し方やしつけについての悩みや疑問、ヒントの交流につなげて良い。 ○子供の問題を「性格」ではなく「行動」に焦点を当てて捉えることの大切さに触れる。</p>	<p>※話し合うことで安心感が生まれることを体験してもらう。</p>
<p>： (5分)</p>	<p><ファシリテーターからの説明> ○参考資料1のグラフ、参考資料2「親子のコミュニケーションサイクル」の紹介 ○参考資料3「親子のコミュニケーションに生かしてみよう」の説明 ※ニコニコサイクルにつながるコツ、ポイントとして押さえても良い。</p>	<p>○グラフから「子供のやることについて口や手を出してしまう」という人が3割近くいるなど、子育てに悩みを持つ人が少なくないことを押さえる。 ○資料等を活用し、必要に応じて次の点を伝える。 ・何かしながらではなく子供と目線を合わせて話をする。 ・行動の過程をほめ、随時言葉かけをし、少しでもできたらほめる。(人はうれしいときに脳の中に心地良さを感じる物質が出てやる気になる。) ※イライラサイクルを否定するのではなく、日頃の子供への接し方を見つめ直す機会とし、イライラな関わりが少なくできると良いことを伝える。</p>	<p>※図(サイクル)を見せながら説明する。</p>
<p>： (5分)</p>	<p><学習を振り返りましょう> ○ワークシートに記入する。 ○気付きの共有</p>	<p>○すぐにはうまくいかないかも知れないが、できることから試してみることの大切さを伝える。 ※参加者一人一人に感想を聞いても良い。 ※時間がない場合は、目を閉じ、自分自身で振り返る方法もある。 ※ファシリテーターからの感想があっても良い。</p>	<p>※ワークシートに無理に記入しなくても良いが、省略はしない。</p>
<p>：</p>	<p>○終了・片付け ○アンケート記入</p>	<p>○参加者全員で行う。 ○アンケート記入者から流れ解散。</p>	<p>※現状復帰</p>
<p><メモ></p>			

<親子コミュニケーション応援編>

対象(時間):概ね2,3歳~6歳児の親 (50分程度)

いきなりどなっていますか？

【ねらい】親が子供を一方向的にどなるマンガの場面を通して、まず子供の気持ちを受け止め、伝えていくことの大切さについて考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、模造紙、付箋紙、フェルトペン(裏写りのしないもの)、アンケート用紙

時間	アクティビティの展開例	留意点	備考
：	○名札付け(来た順に)	○全員が名札をつける。(ニックネーム可)	
： (3分)	○ファシリテーター(学習支援者)自己紹介、主旨・ルールなどを説明。	○和やかな雰囲気づくりを心がける。 ○写真を撮る場合は、前もって許可を得る。 ○「親子コミ」三つの特長(親等の悩みに対応、子供の気持ちを理解し自己を振り返る、具体的な子供との接し方についての情報提供)をファシリテーターが理解した上で、「子供の気持ちに共感した接し方、コミュニケーションの方法を、具体的に考えてみましょう」などと参加者に呼びかけを進める。	※スケジュールを板書しておく。 ※机は4~5人程度の小グループ
： (5分)	○アイスブレイク(雰囲気づくり)「テーマに関する自己紹介」 ①名前 ②子供の数・年齢 ③私のストレス解消法 ※時間に余裕があれば、 →ペアで自己紹介 →グループで他己紹介 という流れで進めることもできる。	○自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 ○自己紹介の後で、ファシリテーターから「ストレス解消方法も様々ですね。今日は多くの方が子育て中に経験されていると思われるエピソードから考えていきましょう」などと教材の内容に入っていくと良い。	
： (10分)	○タイトル、ねらいを読む。 ○<マンガを読んで考えましょう> ○マンガ上段を読んで考える。 ○設問①に記入し、話し合う。 ○マンガ下段を読んで考える。 ○設問②に記入し、話し合う。 ※口頭で考えを交流し合う方法もある。 ※時間に余裕がある場合には、マンガのエピソードを親役、子役になってロールプレイすることで、好ましい関わりに気づく方法もある。	○三つの約束+1(発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守とパス有)を知らせる。 ○イラスト、セリフ、猫の言葉などをファシリテーターの言葉で丁寧に伝える。 ○上段では、何度言っても片付けようとしていない子供に、親が思わず怒鳴ってしまったことを押さえる。 ○下段は、4コマ目で親子共に笑顔であることを押さえ、考えるようにする。 ※具体的な言葉かけや対応についてだけでなく、子供の気持ちや親の気持ちについても考えられるよう促す。 ※ファシリテーターがいくつかの意見を伝えるなどして全体交流とする方法もある。 ※ロールプレイをした場合は、その時の親子の気持ちを想像することができるよう声掛けをする。	※ワークシートは回収しないこと、正解があるわけではないので、自由に書いたり、話したりして構わないことを伝える。

<p>： (22分)</p>	<p><考えましょう，出し合いましょう> ○設問③について記入し，話し合う。 ※食事，片付け，着替えなどの場面から思い出して記入する。 ○話し合ったことを紹介する。</p>	<p>○設問③について，ラベルワークで行うことが効果的。 ※予め模造紙に罫線や項目等を記入しておき，時間短縮の工夫をする方法もある。 ※時間がない場合には，項目を一つに絞って，話しても良い。 ※「付箋紙1枚につき，1つ書く」「簡単で良い」などを伝える。 ○困ったこと，うまくいかなかったことなど，同じような経験をしたことがないか振り返り，その時の子供の様子や気持ちを考える。 ※子供に伝わりやすい言葉かけや対応について考える。 ○子供の問題を「性格」でなく，「行動」に焦点を当てて捉えることの大切さに触れる。</p>	<p>※話し合うことで安心感が生まれることを分かってもらう。</p>
<p>： (5分)</p>	<p><ファシリテーターからの説明> ○参考資料1のグラフ，参考資料2「親子のコミュニケーションサイクル」の紹介 ○参考資料3「親子のコミュニケーションに生かしてみよう」の説明 ※ニコニコサイクルにつながるコツ，ポイントとして押さえても良い。</p>	<p>○グラフから子育てに悩みを持つ人が少なくないことを押さえる。 ○資料等を活用し，必要に応じて次の点を伝える。 ・一方的にどなるのではなく，短い説明で伝える。 ・子供と目線を合わせる，テレビを消すなど伝わりやすい環境を整える。 ・行動の過程をほめ，随時言葉かけをし，少しでもできたらほめる。(人はうれしいときに脳の中に心地良さを感じる物質が出てやる気になる。) ※イライラサイクルを否定するのではなく，日頃の子供への接し方を見つめ直す機会とし，イライラする関わりが少なくできると良いことを伝える。 ○P2のネコの言葉，参考資料3のネコの言葉のつながりを考え，「どなるよりもまず，子供の気持ちを受け止める方が，親も言いたいことが伝わりやすいこと」を押さえる。</p>	<p>※図(サイクル)を見せながら説明する。</p>
<p>： (5分)</p>	<p><学習を振り返りましょう> ○ワークシートに記入する。 ○気づきの共有</p>	<p>○すぐにはうまくいかないかも知れないが，できることから試してみることの大切さを伝える。 ※参加者一人一人に感想を聞いても良い。 ※時間がない場合は，目を閉じ，自分自身で振り返る方法もある。 ※ファシリテーターからの感想があっても良い。</p>	<p>※ワークシートに無理に記入しなくても良いが，省略はしない。</p>
<p>：</p>	<p>○終了・片付け ○アンケート記入</p>	<p>○参加者全員で行う。 ○アンケート記入者から流れ解散</p>	<p>※現状復帰</p>
<p><メモ></p>			

備えあれば怒りなし！？

【ねらい】 お店での行動を「約束」してから行くマンガを通して、事前に説明したり約束したりすることの大切さについて考える。

【準備物】 学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、模造紙、付箋紙、フェルトペン（裏写りのしないもの）、アンケート用紙

時間	アクティビティの展開例	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	
： （3分）	○ファシリテーター（学習支援者） 自己紹介、主旨・ルールなどを説明する。	○和やかな雰囲気づくりを心がける。 ○写真を撮る場合は、前もって許可を得る。 ○「親子コミ」三つの特長（親等の悩みに対応、子供の気持ちを理解し自己を振り返る、具体的な子供との接し方についてを情報提供）をファシリテーターが理解した上で、「子供の気持ちに共感した接し方、コミュニケーションの方法を、具体的にみんなで学びましょう」などと参加者に呼びかけ進める。	※スケジュールを 板書しておく。 ※机は4～5人程 度の小グループ
： （5分）	○アイスブレイク（雰囲気づくり） 「テーマに関する自己紹介」 ①名前 ②子供の数・年齢 ③子供と一緒にやってみたいこと ※時間に余裕があれば →ペアで自己紹介する →グループで他己紹介する という流れで進めることもできる。	○自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 ○自己紹介の後で「子供と一緒に楽しい時間が過ごせたら、うれしいですね。今日はそんなエピソードから考えていきましょう」などと教材の内容に入っていくと良い。	
： （10分）	○タイトル、ねらいを読む。 ＜マンガを読んで考えましょう＞ ○マンガ上段を読む。 ○マンガ下段を読んで考える。 ○設問①②に記入し、話し合う。 ※口頭で考えを交流し合う方法もある。 ※時間に余裕がある場合には、マンガのエピソードを親役、子役になってロールプレイすることで、好ましい関わりに気づく方法もある。	○三つの約束＋1（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守とパス有）を知らせる。 ○イラスト、セリフ、猫の言葉などをファシリテーターの言葉で丁寧に伝える。 ○上段では、自分で考えて、ポジティブな方法を選んでいる流れを押さえる。 ○下段では、3コマ目は家での約束、4コマ目はお店での様子で親子共に笑顔であることを押さえ、考えるようにする。 ※具体的な言葉かけや対応についてだけでなく、子供の気持ちや親の気持ちについても考えるよう促す。 ※ファシリテーターがいくつかの意見を伝えるなどして全体交流とする方法もある。 ※お店で座る位置を工夫することで、子供の動きを抑制する方法もある。 ※ロールプレイをした場合は、その時の親子の気持ちを想像することができるよう声掛けをする。	※ワークシートは 回収しないこと、 正解があるわけでは ないので、自由に書 いたり話したりして 構わないことを伝 える。

<p>：</p> <p>(22分)</p>	<p><考えましょう，出し合ひましょう></p> <p>○設問③について記入し，話し合う。</p> <p>※買い物，片付け，公園遊びなどの場面から思い出して記入する。</p> <p>○話し合ったことを紹介する。</p>	<p>○設問③について，ラベルワークで行うことが効果的。</p> <p>※予め模造紙に罫線や項目等を記入しておき，時間短縮の工夫をする方法もある。</p> <p>※時間がない場合には，項目を一つに絞って，話しても良い。</p> <p>※「付箋紙1枚につき，1つ書く」「簡単で良い」などを伝える。</p> <p>○困ったこと，うまくいかなかったことなど，同じような経験をしたことがないか振り返り，その時の子供の様子や気持ちを考える。</p> <p>※子供に伝わりやすい言葉かけや対応について考える。</p> <p>○子供の問題を「性格」ではなく「行動」に焦点を当てて捉えることの大切さに触れる。</p>	<p>※話し合うことで安心感が生まれることを分かってもらう。</p>
<p>：</p> <p>(5分)</p>	<p><ファシリテーターからの説明></p> <p>○参考資料1のグラフ，参考資料2「親子のコミュニケーションサイクル」の紹介</p> <p>○参考資料3「親子のコミュニケーションに生かしてみよう」の説明</p> <p>※ニコニコサイクルにつながるコツ，ポイントとして押さえても良い。</p>	<p>○グラフから子育てに悩みを持つ人が少なくないことを押さえる。</p> <p>○資料等を活用し，必要に応じて次の点を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に説明したり，具体的な約束をすることで子供は行動しやすくなる。 ・練習の場面でも実際の場面でも，できたことや努力したことをしっかりとほめる。 <p>※イライラサイクルを否定するのではなく，日頃の子供への接し方を見つめ直す機会とし，イライラする関わりが少なくできると良いことを伝える。</p> <p>○P2のネコの言葉，参考資料3のネコの言葉のつながりを考え，「具体的な約束をすることで，子供が安心すること」を押さえる。</p>	<p>※図(サイクル)を見せながら説明する。</p>
<p>：</p> <p>(5分)</p>	<p><学習を振り返りましょう></p> <p>○ワークシートに記入する。</p> <p>○気付きの共有</p>	<p>○すぐにはうまくいかないかも知れないが，できることから試してみる大切さを伝える。</p> <p>※参加者一人一人に感想を聞いても良い。</p> <p>※時間がない場合は，目を閉じ，自分自身で振り返る方法もある。</p> <p>※ファシリテーターからの感想があっても良い。</p>	<p>※ワークシートに無理に記入しなくても良いが，省略はしない。</p>
<p>：</p>	<p>○終了・片付け</p> <p>○アンケート記入</p>	<p>○参加者全員で行う。</p> <p>○アンケート記入者から流れ解散</p>	<p>※現状復帰</p>
<p><メモ></p>			

指示より支持してみよう

【ねらい】 子供が自分で考えたり、試したりする行動を父親が見守るマンガを通して、見守ることの大切さについて考える。

【準備物】 学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、模造紙、付箋紙、フェルトペン(裏写りのしないもの)、アンケート用紙

時間	アクティビティの展開例	留意点	備考
：	○名札付け(来た順に)	○全員が名札をつける。(ニックネーム可)	
： (3分)	○ファシリテーター(学習支援者)自己紹介、主旨・ルールなど説明。	○和やかな雰囲気づくりを心がける。 ○写真を撮る時は、前もって許可を得る。 ○「親子コミ」三つの特長(親等の悩みに対応、子供の気持ちを理解し自己を振り返る、具体的な子供との接し方についての情報提供)をファシリテーターが理解した上で、「子供の気持ちに共感した接し方、コミュニケーションの方法を、具体的にみんなで学びましょう」などと参加者に呼びかけ進める。	※スケジュールを板書しておく。 ※机は4～5人程度の小グループ
： (5分)	○アイスブレイク(雰囲気づくり)「テーマに関する自己紹介」 ①名前 ②子供の数・年齢 ③チャレンジしてみたいこと ※時間に余裕があれば、 →ペアで自己紹介 →グループで他己紹介 という流れで進めることもできる。	○自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 ○自己紹介の後で、ファシリテーターから「いくつになっても何かにチャレンジする姿は素敵ですね。今日は子供たちのチャレンジに関わるエピソードから考えていきましょう。」などと教材の内容に入っていくと良い。	
： (10分)	○タイトル、ねらいを読む。 ＜マンガを読んで考えましょう＞ ○マンガ上段を読む。 ○設問①に記入し、話し合う。 ○マンガ下段を読んで考える。 ○設問②に記入し、話し合う。 ※口頭で考えを交流し合う方法もある。 ※時間に余裕がある場合には、マンガのエピソードを親役、子役になってロールプレイすることで、好ましい関わりに気づく方法もある。	○三つの約束+1(発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守とパス有)を知らせる。 ○イラスト、セリフ、猫の言葉などをファシリテーターの言葉で丁寧に伝える。 ○上段では、子供が自分で考えたり、試そうとするのを待てない父親が指示をしたり、自分が代わりにやっけてしまっている流れを押さえる。 ○下段は、4コマ目で親子共に笑顔であることを押さえ、考えるようにする。 ※具体的な言葉かけや対応についてだけでなく、子供の気持ちや親の気持ちについても考えられるよう促す。 ※ファシリテーターがいくつかの意見を伝えるなどして全体交流とする方法もある。 ※ロールプレイをした場合は、その時の親子の気持ちを想像することができるよう声掛けをする。	※ワークシートは回収しないこと、正解があるわけではないので、自由に書いたり、話したりして構わないことを伝える。
： (22分)	＜考えましょう、出し合ひましょう＞ ○設問③について記入し、話し合う。 ※遊び、着替え、手伝いなどの場面から思い出して記入する。 ○話し合ったことを紹介する。	○設問③について、ラベルワークで行うことが効果的。 ※予め模造紙に罫線や項目等を記入しておき、時間短縮の工夫をする方法もある。 ※時間がない場合には、項目を一つに絞って、話しても良い。 ※「付箋紙1枚につき、1つ書く」「簡単で良い」などを伝える。 ○困ったこと、うまくいかなかったことなど、同じような経験をしたことがないか振り返り、その時の子供の様子や気持ちを考える。 ※子供に伝わりやすい言葉かけや対応について考える。 ○子供の問題を「性格」ではなく「行動」に焦点を当てて捉えることの大切さに触れる。	※話し合うことで安心感が生まれることを体験してもらう。

<p>：</p> <p>(5分)</p>	<p><ファシリテーターからの説明></p> <p>○参考資料1のグラフ、参考資料2「親子のコミュニケーションサイクル」の紹介</p> <p>○参考資料3「親子のコミュニケーションに生かしてみよう」の説明</p> <p>※ニコニコサイクルにつながるコツ、ポイントとして押さえても良い。</p>	<p>○グラフから「子供のやることについて口や手を出してしまう」という人が3割近くいるなど、子育てに悩みを持つ人が少なくないことを押さえる。</p> <p>○資料等を活用し、必要に応じて次の点を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供が自分で考えたり、試したりしている時は、見守るようにする。(自ら行動する力につながる。) ・困っている時には、「〇〇したらどうかな」と子供が判断できるように働きかける。 <p>※イライラサイクルを否定するのではなく、日頃の子供への接し方を見つめ直す機会とし、イライラする関わりが少なくできると良いことを伝える。</p> <p>○参考資料3のネコの言葉を活用して、「見守ることは放置しておくことではなく、合いの手を入れたり、ほめたり、励ますことである」などを押さえる。</p>	<p>※図(サイクル)を見せながら説明する。</p>
<p>：</p> <p>(5分)</p>	<p><学習を振り返りましょう></p> <p>○ワークシートに記入する。</p> <p>○気付きの共有</p>	<p>○すぐにはうまくいかないかも知れないが、できることから試してみることの大切さを伝える。</p> <p>※参加者一人一人に感想を聞いても良い。</p> <p>※時間がない場合は、目を閉じ、自分自身で振り返る方法もある。</p> <p>※ファシリテーターからの感想があっても良い。</p>	<p>※ワークシートに無理に記入しなくても良いが、省略はしない。</p>
<p>：</p>	<p>○終了・片付け</p> <p>○アンケート記入</p>	<p>○参加者全員で行う。</p> <p>○アンケート記入者から流れ解散。</p>	<p>※現状復帰</p>
<p><メモ></p>			

<乳幼児の親を対象とした短時間でできる教材>

対象：0～2歳児の親，参加人数：3～4人，目安時間：15分程度

みんなどうしてる？ ～親編・親の生活編・子供の生活編～

【ねらい】乳幼児期の子育てに関するテーマについて話し合うことで、親同士が結びつききっかけをつくるとともに子育てを振り返る機会とする。

【準備物】サイコロ又はカード，テーマ一覧，三つの約束カード

★事前に主催者に趣旨を全体説明してもらっておくと導入をスムーズに行うことができる（可能であれば）

時間	内容	留意点	備考
：	参加の呼びかけ	○近くにいる人に声をかけ3～4人集める。 ○親同士のつながりづくりのため、15分程度子育てについて、意見交流をする場であることを伝える。	※対象は母親に限らないことを意識する。
： (1分)	趣旨の説明（親プロ）	○「ねらい」を説明し、子育てに正解はなく気軽に話し合う場であることを伝える。	
： (1分)	三つの約束	○三つの約束（簡単な言葉で表現したもの）とパス有り（言いたくないことは話さなくても良い）について確認する。 ○場に提示し、いつでも見られるようにしておく。	※「三つの約束カード」の提示
： (2分)	自己紹介（アイスブレイク） ①自分の名前 ②子供の名前・月齢 ③趣味（マイブーム）等	○初対面の人でも、自由に意見を出せるようにするためのウォーミングアップとする。 ○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○③については、参加者の様子を見て変更してもよい。	
： (2分)	テーマを決める ※ファシリテーターが参加者の様子を見て、使用するカテゴリー（親編・親の生活編・子供の生活編）や道具を決める。	≪サイコロの場合≫ 参加者同士がじゃんけんして勝った人がサイコロを振って出た目のテーマについて話し合う。 ≪カードの場合≫ 6枚セットのカードを参加者1人ずつに配り、話し合いたいテーマについて1枚選んでファシリテーターに渡す。選ばれたカードの多いものを話し合うテーマとする。選ばれたカードが全て異なる又は同数の場合は、シャッフルして参加者かファシリテーターが1枚選びテーマを決める。	※サイコロは偶発性により、普段気づかない視点について振り返る。 ※カードは参加者の意向を反映し、ニーズを知る。
： (7分)	話し合う	○テーマに沿った悩みやエピソードについて話し合うことを伝える。 ○話し合う過程でテーマから逸れてもよい。また、早く話し合いが終了してしまったら、2つ目のテーマを選んでよい。	※参加者が負担に感じないように配慮する。 ※各テーマの質問事例（別紙）参照
： (2分)	<感想>	○話し合っ気づいたこと（知ったこと）や安心したこと等を振り返ってもらう。 ○テーマに関する情報（市町の取組等）があれば提供する（口頭でもよい）。	※次回参加の呼びかけや「親プロ」の案内等をする。
〈メモ〉			